

Hyperion(R) Enterprise(R) Reporting

リリース 6.5.1

セットアップガイド

ORACLE®
ENTERPRISE PERFORMANCE
MANAGEMENT SYSTEM

Hyperion Enterprise Reporting セットアップガイド, 6.5.1

Copyright © 1998, 2009, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: Enterprise Reporting Information Development Team

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle は、Oracle Corporation またはその関連会社、あるいはその両方の登録商標です。他の名称は、それぞれの所有者の商標である可能性があります。

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

目次

第 1 章 このガイドの使用法	7
概要	7
図	7
特定のアプリケーションに関するトピックの特定	7
このガイドのオンライン版の使用法	8
Hyperion Enterprise Reporting ヘルプ	8
第 2 章 Hyperion Enterprise Reporting の概要	11
概要	11
製品情報	12
ディメンション	13
Hyperion Enterprise の例	13
Essbase の例	13
データの取得とデータの視点	13
Hyperion Enterprise の例	14
Essbase の例	14
注釈とローカル見出し	15
Hyperion Enterprise の例	15
レポート関連の関数とキーワード	15
Hyperion Enterprise の例	15
レポート関連のタスク	16
レポートの設計	16
レポートの作成、編集、および書式設定	16
レポートの実行	17
レポートセットとパッケージセットの管理	18
セキュリティ	18
Hyperion Enterprise の例	18
Essbase の例	19
第 3 章 レポートの基本操作	21
Hyperion Enterprise Reporting の起動	21
Hyperion Enterprise Reporting の終了	23
レポートウィザードのクエリ	23

Hyperion Enterprise Reporting のウィンドウ	23
メインウィンドウ	24
レポートウィンドウ	30
パッケージウィンドウ	32
プレビューウィンドウ	33
ダイアログボックスのアイコン	34
システムメニュー	35
[ファイル] メニュー	35
[編集] メニュー	35
[表示形式] メニュー	36
[書式] メニュー	36
[タスク] メニュー	37
[ウィンドウ] メニュー	37
[ヘルプ] メニュー	37
アプリケーションの選択	37
Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点の設定	38
ディメンションのカスタマイズ	39
第4章 クイックスタート	41
Hyperion Enterprise Reporting メインウィンドウ	42
レポートウィンドウまたはパッケージウィンドウを開く	42
レポートまたはパッケージのデータの視点の設定	43
Hyperion Enterprise の例	43
レポートの基礎	43
レポートの計算式	44
レポートの書式	45
ヘッダーとフッター	46
レポートの実行	46
サンプルレポートの作成と実行	46
レポートウィザードを使用したサンプルレポートの作成と実行	48
パッケージの基礎	48
レポートの挿入	49
パッケージセクションの挿入	49
ディメンションの変更のパッケージへの挿入	49
サンプルパッケージの作成	50
レポートとパッケージの印刷	50
連続モードの印刷	51
レポートおよびパッケージの管理	51

第 5 章 関数の簡易リスト	53
ディメンションとディメンションアイコン	53
Hyperion Enterprise のディメンション	53
Hyperion Enterprise Reporting for Essbase のディメンション	54
Hyperion Enterprise の Hyperion Enterprise Reporting 関数	55
Hyperion Enterprise Reporting for Essbase の関数	58
用語集	63
索引	91

1

このガイドの使用方法

この章の内容

概要	7
図	7
特定のアプリケーションに関するトピックの特定	7
このガイドのオンライン版の使用法	8
Hyperion Enterprise Reporting ヘルプ	8

概要

このガイドと『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』では、オラクル社の HyperionR EnterpriseR Reporting の概念について説明し、さまざまな操作手順を順を追って示します。このガイドに従うと、オラクル社の HyperionR EnterpriseR および Oracle Essbase のアプリケーションとともに Hyperion Enterprise Reporting を使用できるようになります。また、このガイドでは、どの情報がどのアプリケーションに該当するかを特定するのに役立つ表記規則とアイコンが使用されています。

オラクル社の複数の Enterprise Performance Management ソフトウェアに該当するトピックには、各製品に関する例、手順、またはその両方が記載されている場合があります。これにより、テキストを簡単に一読するだけでお使いのアプリケーションに該当する例や手順を見つけることができます。



このガイドと『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』では、一部のトピックを図解するために、Hyperion Enterprise Reporting のウィンドウとダイアログボックスの図が使用されています。これらの図の大半は、Hyperion Enterprise アプリケーションと連動する Hyperion Enterprise Reporting を示したものです。Essbase のアプリケーションに関するレポートを作成している場合は、ウィンドウおよびダイアログボックスの外観と内容が図と多少異なることがあります。

特定のアプリケーションに関するトピックの特定

Hyperion Enterprise Reporting のオンラインヘルプや『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』と同様に、このガイドに記載されるトピックは、Hyperion Enterprise と Essbase の両方を使用して構築されたアプリケーションに該当します。ただし、どちらかのアプリケーションにのみ該当するトピックもあります。Hyperion

Enterprise と Essbase のどちらかにのみ該当するトピックには、該当するアプリケーションを示す注記が記載されています。例は次のとおりです。

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

このガイドのオンライン版の使用法

Hyperion Enterprise Reporting のインストールプログラムには、このガイドが Adobe Acrobat ファイル形式で含まれています。そのため、ガイドの内容をオンラインで調べたり、ガイド全体や必要なトピックをコンピュータから印刷したりできます。このファイルは Adobe Acrobat Reader を使用してオンラインで表示し、印刷します。Hyperion Enterprise Reporting に付属の Adobe Acrobat ファイルについては、『Hyperion Enterprise Reporting インストールガイド』を参照してください。

Hyperion Enterprise Reporting のマニュアルセットには、このガイド以外にも次の項目が含まれています。

- USERS.PDF ファイル：Adobe Acrobat ファイル形式の『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』
- Hyperion Enterprise Reporting ヘルプ

➤ オンラインガイドを表示または印刷するには、次の手順に従います。

1 次のいずれかを実行します。

- Hyperion Enterprise Reporting ヘルプの [目次] で [オンラインガイド (PDF)] を選択し、[Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド] または [Hyperion Enterprise Reporting セットアップガイド] を選択します。
- Hyperion Enterprise Reporting 製品で [ヘルプ] メニューの [オンラインガイド (PDF)] を選択し、[Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド] または [Hyperion Enterprise Reporting セットアップガイド] を選択します。

注： 選択したガイドが Adobe Acrobat Reader プログラムで表示されます。

2 ガイドを印刷するには、Adobe Acrobat Reader の [ファイル] メニューの [印刷] を選択します。

注： プリンタと印刷オプションを選択して、[OK] をクリックします。

Hyperion Enterprise Reporting ヘルプ

Hyperion Enterprise Reporting ヘルプには、『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』に記載されている操作手順が示されるだけでなく、Hyperion Enterprise Reporting の大半のダイアログボックスに関するオンラインヘルプがただちに表示されます。Hyperion Enterprise Reporting から Hyperion Enterprise Reporting ヘルプにアクセスするには、次のいずれかの操作を行います。

- [ヘルプ] メニューの [目次] を選択して、目次にアクセスします。

- [ヘルプ] メニューの [ヘルプの検索] を選択して、特定のヘルプトピックを検索します。
- 製品の任意の場所で [F1] キーを押します。
- 任意のダイアログボックスの [ヘルプ] ボタンをクリックします。

2

Hyperion Enterprise Reportingの概要

この章の内容

概要	11
製品情報	12
ディメンション	13
データの取得とデータの視点	13
注釈とローカル見出し	15
レポート関連の関数とキーワード	15
レポート関連のタスク	16
セキュリティ	18

概要

Hyperion Enterprise Reporting は、財務データを現金出納報告書、予定財務諸表、損益計算書、貸借対照表などの形式で表すことのできる、強力なグラフィックツールです。Hyperion Enterprise Reporting を使用すると、オラクル社の Enterprise Performance Management ソフトウェア（Hyperion Enterprise および Essbase）から必要なデータの検索と計算が可能になり、その結果を任意の形式で表示できます。

Hyperion Enterprise Reporting では、スプレッドシートスタイルのレポートレイアウトが使用されます。Microsoft[®] Excel[®]などのスプレッドシートプログラムを使用したことがあれば、Hyperion Enterprise Reporting を使ってレポートを簡単に編集できます。

次の図に、Hyperion Enterprise Reporting の標準的なレポートレイアウトを示します。

図 1 Hyperion Enterprise Reporting のレポートレイアウト

		1	2	3
		JAN. 1996	FEB. 1996	MAR. 1996
1	Cash - Seattle Bank & Trust	(#,##0)	(#,##0)	(#,##0)
2	Cash - Bank of Canada	(#,##0)	(#,##0)	(#,##0)
3	Cash - Royal Bank of London	(#,##0)	(#,##0)	(#,##0)
4	Cash - Bank of Naperville	(#,##0)	(#,##0)	(#,##0)
5	Cash - Bank of New York	(#,##0)	(#,##0)	(#,##0)
6	Cash - San Francisco Bank	(#,##0)	(#,##0)	(#,##0)
7	Cash - Charleston Bank	(#,##0)	(#,##0)	(#,##0)
8	Cash - Bank of Vermont	(#,##0)	(#,##0)	(#,##0)
9	Petty Cash	(#,##0)	(#,##0)	(#,##0)
10	Total Cash	(#,##0)	(#,##0)	(#,##0)

レポートを編集するには、レポートでグリッド領域を選択し、これらの領域にディメンションなどの項目を割り当てます。関数を選択し、プロンプトに従って関数に必要な計算式を作成すると、列や行に財務計算式を追加できます。

標準レポートだけでなく、複合レポートも作成できます。複合レポートとは、一緒に表示する複数のレポートを入れるコンテナのことです。詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』または Hyperion Enterprise Reporting ヘルプを参照してください。

一緒に印刷するレポートをまとめたパッケージを作成すると、レポート作成タスクを自動化できます。典型的なパッケージには、一連のディメンション ID の値を生成するために四半期ごとに実行するレポートなどが含まれています。詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』または Hyperion Enterprise Reporting ヘルプを参照してください。

一度に複数のレポートまたはレポートのセットを印刷、印刷プレビュー、およびエクスポートすることが可能です。Hyperion Enterprise Reporting では、これらの機能を連続印刷、連続印刷プレビュー、および連続エクスポートと呼びます。詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』または Hyperion Enterprise Reporting ヘルプを参照してください。

製品情報

Hyperion Enterprise Reporting は、Hyperion Enterprise および Essbase と連動します。Hyperion Enterprise Reporting の次の機能は、Hyperion Enterprise Standard Edition (SE) には適用されません。

- レポートオプションの親子関係に基づくデータの表示
- レポートオプションのエンティティ一覧を作成するときのデータ種別の指定 (期間別組織)
- セキュリティクラス
- パッケージセット

次の関数は、Hyperion Enterprise SE では使用できません。

- @ACODE
- @AMCODE
- @CMCODE
- @ECODE
- @PSF
- @TMCODE

ディメンション

ディメンションには情報が保存されます。例えば、勘定科目ディメンションには、勘定科目に関する情報が含まれた勘定科目 ID が保存されます。

予算、実績、および予測は勘定科目 ID の例です。Essbase では、ディメンションをメンバと呼びます。

レポートには、特定のディメンションの値が示されます。レポートの列と行には、それぞれ少なくとも 1 つずつディメンション設定を指定する必要があります。詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』または Hyperion Enterprise Reporting ヘルプを参照してください。

ディメンションを列または行に割り当てない場合、レポートおよびパッケージのデータの視点、および Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点からレポートに設定が継承されます。詳しくは、[13 ページの「データの取得とデータの視点」](#)を参照してください。

Hyperion Enterprise の例

例えば、勘定科目に関する行を設定し、期間とデータ種別に関する列を設定したとします。この場合、Sales 行と Q2 Budget 列が交差するセルは、第 2 四半期における販売予算を示します。このセルは、レポート、パッケージ、または Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点からエンティティと期間単位の設定を取得します。

Essbase の例

例えば、市場に関する行を設定し、シナリオと期間に関する列を設定したとします。この場合、East 行と Q2 Budget 列が交差するセルは、第 2 四半期における販売予算を示します。このセルは、レポート、パッケージ、または Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点からその他の設定を取得します。

データの取得とデータの視点

Hyperion Enterprise Reporting では、データの視点に関して以下の設定をこの順序で使用して、レポートまたはパッケージを実行するときどのデータ値を取得するかを決定します。

- 個々のレポートまたはパッケージの各レポートに含まれている列と行
- レポートのデータの視点
- パッケージで定義されたセクション
- パッケージのデータの視点
- Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点

注： REPENG.INI ファイルに Web=Yes が設定されており、Hyperion Enterprise Reporting Web がインストールされている場合、Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点を Essbase に設定することはできません。Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点が設定されていない場合、Hyperion Enterprise Reporting は起動しません。

Hyperion Enterprise の例

貸借対照表レポートのデータの視点でエンティティに **Midwest** を指定し、行と列にそれぞれ勘定科目と期間を割り当てたとします。このレポートを個別に実行すると、割り当てた勘定科目および期間に関する **Midwest** の値が示され、エンティティ、勘定科目、および期間以外のディメンションには Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点が使用されます。

四半期別レポートパッケージに貸借対照表レポートを含めて、エンティティに **Northeast**、データ種別に **Actual** を指定するデータの視点をこのパッケージに割り当てたとします。このパッケージを実行すると、レポートのデータの視点によってパッケージのデータの視点が上書きされるので、貸借対照表レポートでは **Midwest** の実績値が取得されます。このレポートでは、エンティティ、データ種別、勘定科目、および期間以外のディメンションに Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点が使用されます。

Essbase の例

チャンネル別製品レポートのデータの視点で地域に **Northeast** を指定し、行と列にそれぞれ製品とチャンネルを割り当てたとします。このレポートを個別に実行すると、割り当てた製品およびチャンネルに関する **Northeast** の値が示され、地域、製品、およびチャンネル以外のディメンションには Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点が使用されます。

四半期別レポートパッケージにチャンネル別製品レポートを含めて、地域に **Southwest**、期間に **Q2** を指定するデータの視点をこのパッケージに割り当てたとします。このパッケージを実行すると、レポートのデータの視点によってパッケージのデータの視点が上書きされるので、チャンネル別製品レポートでは **Northeast** の第 2 四半期値が取得されます。このレポートでは、地域、期間、製品、およびチャンネル以外のディメンションに Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点が使用されます。

注釈とローカル見出し

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

注釈とは、レポート出力に情報を追加するためにコメントやその他のテキストを入力できるフィールドのことです。任意のディメンションにフィールドごとに異なる注釈を設定できます。ローカル見出しとは、レポートにおけるディメンション設定に基づいて説明の代わりに使用できるフィールドのことです。Hyperion DataExtend を使用して、ローカル見出しと注釈のフィールドを設定します。

HyperionR Schedules または HyperionR Distributed Schedules を使用して、注釈とローカル見出しを入力します。入力した注釈とローカル見出しは、Hyperion Enterprise Reporting を使用してレポートに追加します。詳しくは、以下のガイドおよびヘルプを参照してください。

- Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド
- Hyperion Enterprise Reporting ヘルプ
- Hyperion Schedules ヘルプ
- Hyperion Distributed Schedules ヘルプ

Hyperion Enterprise の例

ある会社の勘定科目表には Cost A という勘定科目があります。Cost A は、Canada Division では輸送費を表し、Northeast Division では梱包費を表します。Accounts by Division というローカル見出しフィールドを作成すると、エンティティごとに勘定科目の説明を保存できます。この場合、Cost A について Canada Division エンティティではローカル説明として Transportation Costs を使用し、Northeast Division エンティティでは Packaging Costs を使用します。

レポート関連の関数とキーワード

関数とは、Hyperion Enterprise Reporting でどの情報を取得して計算し、これらの情報をどのように表示するかを指定するコードのことです。テキスト関数は、ディメンション ID や説明などの英数字を取得します。財務計算関数は、2つの列または行の値の比率など、財務データを取得して計算します。

Hyperion Enterprise の例

一部の関数は、ディメンションを指定するキーワードとのみ使用します。レポートまたはパッケージにディメンションを割り当てると、レポート定義およびパッケージ定義の計算式にキーワードが自動的に追加されます。例えば、Sales 勘定科目を表す列を設定すると、Sales 勘定科目のキーワード SUBACC1 の後に ID が続く計算式がこの列に自動的に作成されます。

注： キーワードは Hyperion Enterprise でのみ使用できます。

レポート関連のタスク

レポート関連のタスクは以下のとおりです。

- レポートの設計
- レポートの作成、編集、および書式設定
- レポートまたはパッケージの実行
- レポートセットおよびパッケージセットの管理

通常、レポートは、設計してから **Hyperion Enterprise Reporting** で作成します。レポートを作成、編集、および書式設定したら、レポートの出力をプレビューし、必要に応じてさらに編集します。次にレポートを印刷するか、レポートを含むパッケージを作成し、パッケージを印刷します。

レポートまたはパッケージを作成したら、レポートセットまたはパッケージセットに追加します。セットとは、レポートまたはパッケージを便宜上まとめたグループのことです。例えば、すべての予測レポートを含むレポートセットなどを作成できます。

注： 新規のレポートまたはパッケージを保存するには、まずレポートセットまたはパッケージセットを作成しておく必要があります。**Hyperion Enterprise SE** では使用できません。

レポートの設計

レポートを作成および編集するには、レポートに含める情報とレポートの外観をまず決めておく必要があります。レポートを設計する際には、以下の項目を検討してください。

- どのデータを含める必要があるか。
- 標準レポートと複合レポートのどちらを作成するか。
- 列のデータと列見出しは何か。
- 行のデータと行見出しは何か。
- タイトルとファイル名は何か。
- レポートのページを横向きと縦向きのどちらで印刷するか。
- 列幅はどの程度にするか。
- レポートの各ページにどのような情報を表示するか（ページ番号など）。
- レポートのタイトル、見出し、値などにどのようなフォント、サイズ、およびスタイルを使用するか。

レポートの作成、編集、および書式設定

レポートを作成または編集するには、表示するデータのディメンションを指定します。一部の列や行にはディメンションを割り当て、その他にはレポートのデータの視点を設定することもできます。レポートの編集方法について詳しくは、『**Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド**』または **Hyperion Enterprise Reporting**

ヘルプを参照してください。データの視点について詳しくは、[13 ページの「データの取得とデータの視点」](#)を参照してください。

書式オプションは、レポート全体に指定することも、ヘッダー、フッター、列見出し、行見出し、およびデータに個別に指定することもできます。例えば、レポート全体に Arial フォント、列見出しに太字、行見出しに斜体、一部の行データに網掛けを指定することができます。レポートの書式設定方法について詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』または Hyperion Enterprise Reporting ヘルプを参照してください。

レポートの実行

指定したとおりにデータを取得、計算、および表示するには、レポートおよびパッケージを実行します。レポートまたはパッケージを実行すると、その出力を印刷したり、ファイルに保存したりできます。レポートの印刷プレビューを画面で表示することもできます。

次の図に、列と行にデータ種別と勘定科目をそれぞれ含んだレポートの出力を示します。この出力では、エンティティ、期間、および期間単位に Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点を使用して、会社の月次データを示しています。詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』または Hyperion Enterprise Reporting ヘルプを参照してください。

図 2 レポートの出力

Company A Base-Level Company Report: RPPL4 Income Statement Report			
	BUDGET	ACTUAL	LSTYR
Gross Sales	25,647,441	26,221,563	24,221,563
Cost of Goods Sold	21,566,322	20,947,471	19,887,921
Gross Margin	4,081,119	5,274,092	4,333,642
Marketing Expense	2,220,223	2,757,333	2,500,132
Operating Expense	1,607,421	1,951,259	1,599,417
Other Income/(Expense)	15,000	10,000	8,500
Profit Before Tax	268,475	575,500	242,593
Taxes	123,499	264,730	412,428
Net Income(Loss)	144,976	310,770	(169,835)
Values in U.S. Dollars			

ヘッダー	各ページの一番上に表示されます。単位としてインチを使用できます。
列	データと見出しを示します。上記の図の列には、Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点で表された現在のエンティティ、期間、および期間単位における、Budget、Actual、および Last Year データ種別の月次データが含まれています。
行	データと見出しを示します。前の図の行には、勘定科目のデータが含まれています。
フッター	各ページの一番下に表示されます。前の図のフッターは、中央揃えされた 1 行のテキストで、レポートの値に使われた通貨を説明しています。
余白	レポートの外縁の空白領域。単位はインチです。

レポートセットとパッケージセットの管理

作成したレポートを保存したら、レポートをセットに追加します。レポートセットを使用すると、レポートを論理的にグループ化できます。同じレポートを複数のセットに追加することができます。

注： パッケージセットは、Hyperion Enterprise と Essbase でサポートされています。

セットを定義すると、レポートやパッケージを実行または編集する場合に簡単に見つけることができます。例えば、損益計算書、貸借対照表、および現金出納報告書用にそれぞれレポートセットを 1 つずつ作成したり、特定の部門のすべてのパッケージを含むパッケージセットを作成することもできます。

レポートセットとパッケージセットを管理する場合、セットの作成や削除、検索やソート、それらを構成するレポートとパッケージの追加や削除などを行います。また、Hyperion Schedules のデータ入力に使用できるレポートをまとめたレポートセットを作成することもできます。詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』または Hyperion Enterprise Reporting ヘルプを参照してください。

セキュリティ

新規のレポートまたはパッケージを保存するときは、レポートまたはパッケージに割り当てるセキュリティクラスを選択します。どのクラスを選択するかによって、レポートまたはパッケージに対する個々のユーザのアクセス権が決まります。

Hyperion Enterprise の例

Hyperion Enterprise で、アプリケーションに「Management」というセキュリティクラスが設定されているとします。レポートにクラスを割り当てると、ドキュメントの Management クラスに対する「修正」アクセス権を持っているユーザは、レポートを表示、編集、または実行できます。その他のユーザはレポートを実行できますが、編集することはできません。Management クラスへのアクセス権を持っていないユーザは、レポートを開いたり、実行したりできません。

セキュリティクラスは、作成したレポートセットとパッケージセットにも割り当てます。各セットにどのセキュリティクラスを選択するかによって、そのセットにアクセスできるユーザが決まります。

Essbase の例

Essbase で、アプリケーションに「Public」というセキュリティクラスが設定されているとします。レポートにクラスを割り当てると、ユーザはレポートを表示、編集、または実行できます。レポートを表示、編集、または実行できるのは、セキュリティクラスにその ID が設定されているユーザのみです。ID は、グループセキュリティクラスの一部である場合もあります。そのグループのメンバであれば、レポートを表示、編集、または実行できます。

この章の内容

Hyperion Enterprise Reporting の起動	21
Hyperion Enterprise Reporting の終了	23
レポートウィザードのクエリ	23
Hyperion Enterprise Reporting のウィンドウ	23
ダイアログボックスのアイコン	34
システムメニュー	35
アプリケーションの選択	37
Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点の設定	38
ディメンションのカスタマイズ	39

Hyperion Enterprise Reporting のウィンドウ、メニュー、およびダイアログボックスを使用した以下の基本操作を習得したら、Hyperion Enterprise Reporting でレポートおよびパッケージの作成と編集を開始できます。

- Hyperion Enterprise Reporting の起動と終了
- Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点の設定
- アプリケーションの選択
- レポートディメンションの管理

Hyperion Enterprise Reporting の起動

Hyperion Enterprise Reporting を起動する前に、Windows 環境について基本的に理解しておく必要があります。Windows を使用したことがない場合は、Microsoft Windows のユーザガイドを参照してください。

Hyperion Enterprise Reporting、個々のレポート、パッケージ、およびセットにアクセスできるかどうかは、Hyperion Solutions 製品の設定によって異なります。アクセス権については、システム管理者に問い合わせてください。Hyperion Enterprise Reporting を起動するには、次の作業を完了しておく必要があります。

- Hyperion Enterprise アプリケーションまたは Essbase アプリケーションの作成
- Hyperion Enterprise アプリケーションにおけるデータの視点の設定

注： Hyperion Enterprise Reporting for Essbase で Essbase アプリケーションを初めて開くと、データの視点を設定するように求めるメッセージが表示されます。

Hyperion Solutions のユーザ ID、パスワード、製品、およびアプリケーションを指定します。また、Essbase のサーバおよびアプリケーションセットも指定します。

▶ Hyperion Enterprise Reporting を起動するには、次の手順に従います。

- 1 [スタート] メニューから [プログラム]、[Hyperion Solutions]、[Hyperion Enterprise Reporting]、[Windows Client] の順に選択します。

Hyperion Enterprise Reporting のログイン画面が表示されます。

- 2 有効なユーザ ID とパスワードを入力します。

[接続] ボタンが選択可能になります。

- 3 [接続] ボタンをクリックします。

[アプリケーションセット] フィールドと [アプリケーション] フィールドに項目が表示されます。

- 4 次のいずれかを実行します。

1. Hyperion Enterprise または Hyperion Enterprise SE を選択する場合は、[アプリケーション] ボックスでアプリケーションを選択し、[OK] をクリックします。

2. Essbase を選択する場合は、サーバ、アプリケーションセット、およびアプリケーションを選択する必要があります。[OK] をクリックします。

Hyperion Enterprise Reporting の終了

Hyperion Enterprise Reporting は、任意のウィンドウから終了できます。Hyperion Enterprise Reporting を終了すると、開いているソフトウェアアプリケーションまたは Windows に戻ります。

- ▶ Hyperion Enterprise Reporting を任意のウィンドウから終了するには、[ファイル] メニューから [終了] を選択します。

注： 変更内容を保存せずに終了しようとする、変更内容を保存するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。変更内容を保存するには、[はい] ボタンをクリックします。

レポートウィザードのクエリ

レポートウィザードは、Hyperion Enterprise Reporting 内で動的なアドホッククエリを作成するために使用するグラフィックツールです。レポートウィザードのクエリをプレビューすると、クエリのレポート表示形式を確認できます。クエリはレポートとして保存できます。また、クエリのデータの視点を変更することもできます。

レポートウィザードには、ディメンションを表すアイコンがあり、これらのアイコンは列および行の軸に割り当てます。レポートウィザードのクエリにディメンション値を割り当てるには、レポート軸から列軸と行軸にディメンションアイコンをドラッグ&ドロップし、各ディメンションの値を選択します。列と行にディメンションを1つずつ割り当てると、クエリによってデータが生成されます。詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』または Hyperion Enterprise Reporting ヘルプを参照してください。

Hyperion Enterprise Reporting のウィンドウ

Hyperion Enterprise Reporting でレポートおよびパッケージを操作するには、以下のウィンドウを使用します。

- メインウィンドウ
- レポートウィンドウ
- パッケージウィンドウ
- プレビューウィンドウ

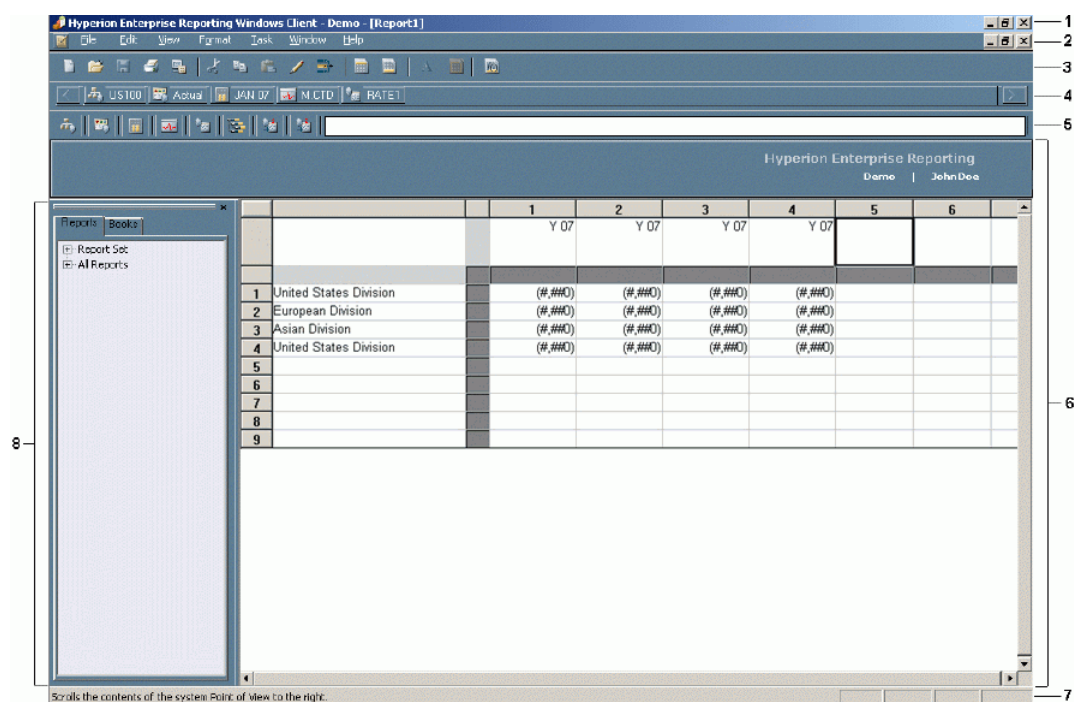
メインウィンドウ

Hyperion Enterprise Reporting で行うすべてのタスクをメインウィンドウから開始します。メインウィンドウは、Hyperion Enterprise Reporting を起動すると表示され、Hyperion Enterprise Reporting を終了するまで開いたままです。メインウィンドウのコントロールは、レポートをプレビューしている場合を除き、レポートウィンドウまたはパッケージウィンドウのどちらが開いていても使用できます。

メインウィンドウから、レポートウィンドウとパッケージウィンドウを開くことができます。レポートウィンドウとパッケージウィンドウをすべて閉じると、メインウィンドウが再び表示されます。

次の図に、メインウィンドウの一部を示します。

図 3 メインウィンドウ



1. タイトルバーには、Hyperion Enterprise Reporting ラベルと現在のアプリケーションの名前が表示されます。レポートまたはパッケージが開いている場合は、アプリケーション名の後にアクティブなレポートまたはパッケージのファイル名が表示されます。
2. メニューバーには、さまざまなタスクを実行するために使用できるメニューが一覧表示されます。表示されるメニューは、レポートウィンドウとパッケージウィンドウのどちらがアクティブになっているかによって異なります。詳しくは、[35 ページの「システムメニュー」](#)を参照してください。
3. ツールバーからは、よく使われる Hyperion Enterprise Reporting 機能にすばやくアクセスできます。
4. データの視点バーのボタンには、現在のデータの視点のディメンション設定が表示されます。データの視点バーのボタンを選択すると、Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点を変更するためのダイアログボックスが表示されます。詳しくは、[27 ページの「データの視点バー」](#)を参照してください。

5. 計算式バーには、レポート領域やパッケージ領域に割り当てることができるディメンションのアイコンだけでなく、データ計算式やタイトル計算式を示す編集ボックスも含まれています。計算式バーは、レポートを開くとアクティブになります。詳しくは、[28 ページの「計算式バー」](#)を参照してください。
6. ワークスペースには、開いているレポートまたはパッケージが表示されます。
7. ステータスバーには、ハイライトされたメニューコマンドの説明が表示され、レポートウィンドウがアクティブになっている場合は、レポートにどの書式オプションが設定されているかも表示されます。詳しくは、[29 ページの「ステータスバー」](#)を参照してください。
8. レポートとパッケージのフォルダ構造を管理すると、レポートセットとパッケージセットを階層表示できます。フォルダ構造では、レポートセット、パッケージセット、レポート、パッケージを作成、削除、編集できます。






ツールバー

ツールバーからは、よく使われる Hyperion Enterprise Reporting 機能にすばやくアクセスできます。また、ツールバーには、計算式バーの編集ボックスでデータ計算式とタイトル計算式を切り替えるためのアイコンも表示されます。使用可能なツールは、レポートとパッケージのどちらがアクティブになっているかと、どのレポート領域またはパッケージ領域を選択したかによって異なります。ツールバーの表示と非表示を切り替えるには、[表示形式] メニューを使用します。




図 4 ツールバーのアイコン



表 1 ツールバーのアイコン

アイコン	メニューコマンド	説明
	[ファイル] メニューの [新規作成]	新規のレポートウィンドウまたはパッケージウィンドウが開きます。
	[ファイル] メニューの [開く]	レポートまたはパッケージが開きます。
	[ファイル] メニューの [保存]	アクティブなレポートまたはパッケージが保存されます。アクティブなレポートまたはパッケージをまだ保存していない場合は、[保存] アイコンをクリックすると、[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。
	[ファイル] メニューの [印刷]	アクティブなレポートまたはパッケージが印刷されるか、出力がファイルに送信されます。
	[ファイル] メニューの [プレビュー]	レポートの出力を印刷する前に表示できます。[プレビュー] アイコンは、レポー

アイコン	メニューコマンド	説明
		トウィンドウがアクティブになっている場合に使用できます。
	[編集] メニューの [切り取り]	選択したレポート領域またはパッケージ領域が削除され、Windows のクリップボードに配置されます。
	[編集] メニューの [コピー]	選択したレポート領域またはパッケージ領域が Windows のクリップボードにコピーされます。
	[編集] メニューの [貼り付け]	Windows のクリップボードの内容が選択したレポート領域またはパッケージ領域に貼り付けられます。
	[編集] メニューの [計算式]	レポートで選択した行または見出しのデータ計算式とタイトル計算式を編集できます。 また、データ計算式のテキスト表示関数を作成することもできます。
	レポートの場合 : [編集] メニューの [行の挿入]、または [編集] メニューの [列の挿入] パッケージの場合 : [編集] メニューの [レポートの挿入]	行または列がレポートに挿入されます。パッケージの場合、パッケージに挿入するレポートを選択するための [レポートの挿入] ダイアログボックスが表示されます。
	[表示形式] メニューの [ヘッダー]	出力で各ページの一番上に表示されるテキストを定義できます。[ヘッダー] アイコンは、レポートウィンドウがアクティブになっている場合にのみ使用できます。詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』または Hyperion Enterprise Reporting ヘルプを参照してください。
	[表示形式] メニューの [フッター]	レポートの出力で各ページの一番下に表示されるテキストを定義できます。[フッター] アイコンは、レポートウィンドウがアクティブになっている場合にのみ使用できます。詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』または Hyperion Enterprise Reporting ヘルプを参照してください。
	[書式] メニューの [フォント]	レポート領域のフォントオプションを選択できます。[フォント] アイコンは、レ

アイコン	メニューコマンド	説明
		ポートウィンドウがアクティブになっている場合にのみ使用できます。
	[書式] メニューの [網掛け] の [枠線]	[書式] ダイアログボックスで [網掛け]、[枠線] タブの順に選択しなくても、選択した列、行、データ、または見出しの周りに枠線が追加されます。詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』または Hyperion Enterprise Reporting ヘルプを参照してください。
 	[書式] メニューの [タイトル]	計算式バーの編集ボックスの表示がデータ計算式とタイトル計算式の間で切り替わります。

データの視点バー

列または行、あるいはアクティブなレポートまたはパッケージのデータの視点で割り当てていないディメンションの ID は、Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点によって指定されます。Hyperion Enterprise Reporting を Hyperion Enterprise アプリケーションとともに初めて起動すると、Hyperion Enterprise Reporting では、Hyperion Enterprise アプリケーションのデータの視点を継承します。Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点は、データの視点バーまたは [編集] メニューの [データの視点] コマンドを使用していつでもリセットできます。Hyperion Enterprise Reporting では、次の Hyperion Enterprise Reporting セッションのために新しい設定が保存されます。ただし、変更内容は、アプリケーションに対する Hyperion Enterprise のデータの視点に影響を与えません。

Essbase アプリケーションの場合、データの視点は、Hyperion Enterprise Reporting を初めて起動したときに設定します。

データの視点バーには、各ディメンションの現在のデータの視点を示すボタンが表示されます。データの視点ボタンを使用すると、データの視点をすばやくリセットできます。[表示形式] メニューから、データの視点バーの表示と非表示を切り替えることができます。データの視点バーを右マウスボタンでクリックすると、[データの視点バーのカスタマイズ] ダイアログボックスにアクセスするための浮動メニューが表示されます。

Hyperion Enterprise の場合、デフォルトのデータの視点バーには、エンティティ、データ種別、期間、期間単位、および勘定科目の各設定を示す 5 つのボタンが表示されます。任意のディメンションのボタンを表示するように、データの視点バーをカスタマイズすることもできます。詳しくは、[28 ページの「データの視点バーのカスタマイズ」](#)を参照してください。

次の図に、Hyperion Enterprise のデータの視点バーの例を示します。

図 5 データの視点バー



ボタンをクリックして、ディメンションに設定された Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点をリセットできます。左右の矢印ボタンをクリックすると、画面の左右に非表示になっているボタンが表示されます。

注： データの視点バーでディメンション設定が無効になっている場合、ディメンションは、アクティブなレポートまたはパッケージのデータの視点で設定されます。レポートまたはパッケージのデータの視点は、Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点を上書きします。レポートまたはパッケージのデータの視点を設定または変更するには、[編集] メニューを使用します。

データの視点バーのカスタマイズ

データの視点バーのカスタマイズでは、ディメンションボタンのピクチャを無効にできます。テキストを名前や説明に変更することも、テキストなしにすることもできます。データの視点ディメンションに表示されるフォントを変更することもできます。データの視点バーのボタンを無効にするには、[Show Button (ボタンの表示)] で対応するディメンション名のボタンの選択を解除します。

- ▶ データの視点バーのカスタマイズ機能を使用するには、[タスク] メニューの [データの視点バーのカスタマイズ] を選択します。

計算式バー

計算式バーを使用すると、レポートおよびパッケージのディメンションと計算式を簡単に編集できます。計算式バーにはアイコンがあり、これらのアイコンをクリックすると、アクティブなレポートの行または列にディメンションを選択するためのダイアログボックスが表示されます。計算式バーには、データ計算式とタイトル計算式を表示および編集するための編集ボックスも含まれています。計算式バーの編集ボックスでデータ計算式またはタイトル計算式を表示するには、ツールバーの [データ計算式の表示] アイコンまたは [タイトル計算式の表示] アイコンを使用します。

次の図に、Hyperion Enterprise の計算式バーの例を示します。

図 6 計算式バー



計算式バーのディメンションアイコンの機能は、[編集] メニューの [ディメンション] と同じです。表示されるディメンションアイコンを追加または削除することもできます。詳しくは、29 ページの「[計算式バーのオプション](#)」を参照してください。

レポートウィンドウがアクティブになっており、計算式バーの編集ボックスでタイトル計算式を表示している場合は、列または行を選択して、タイトルを生成する計算式を表示または編集できます。計算式バーの編集ボックスでデータ計算式

を表示している場合は、列または行を選択して、データを取得または計算する計算式を表示、作成、または編集できます。

例えば、行 5 に給与が表示され、行 23 に売上が表示されるとします。この場合、行 5 の値と行 23 の値の比率を示す行を作成できます。新しい行には、給与と売上の比率が表示されます。計算式バーでデータ計算式を表示すると、次の計算式が編集ボックスに表示されます。

RAT(5,23)

次に、タイトル計算式を表示して、新しい行のタイトルを作成できます。例えば、前の例では次のタイトルを作成できます。

Salaries/Sales

計算式は、計算式バーの編集ボックスに入力するか、[計算式の編集] ダイアログボックスで作成および編集することができます。詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』または Hyperion Enterprise Reporting ヘルプを参照してください。

計算式バーのオプション

計算式バーで表示するディメンションを選択するには、[Show Button (ボタンの表示)] で対応するディメンション名のボタンを選択または選択解除します。デフォルトでは、選択したすべてのディメンションが表示されます。

計算式バーを右マウスボタンでクリックすると、[計算式バーのカスタマイズ] ダイアログボックスにアクセスするための浮動メニューが表示されます。

- ▶ 計算式バーのカスタマイズ機能を使用するには、[タスク] メニューの [計算式バーのカスタマイズ] を選択します。

ステータスバー

ステータスバーには、システムのステータスが表示されます。例えば、システムでユーザ入力に対する準備が整うと、ステータスバーに「Ready」と表示されます。ツールバーまたはデータの視点バーでアイコンをハイライトすると、アイコンの簡単な説明がステータスバーに表示されます。レポートウィンドウがアクティブになっている場合は、レポートに設定されている書式オプションもステータスバーに表示されます。ステータスバーの表示と非表示を切り替えるには、[表示形式] メニューを使用します。

次の図に示すステータスバーは、システムで入力の準備が整ったことと、アクティブなレポートでレイアウト、表示、および表示基準の書式オプションが設定されていることを示しています。

図 7 ステータスバー



次の表に、レポートウィンドウがアクティブなときにステータスバーに表示される可能性がある、書式オプションのインジケータを示します。詳しくは、『Hyperion

Enterprise Reporting ユーザガイド』または Hyperion Enterprise Reporting ヘルプを参照してください。

表 2 書式オプションのインジケータ

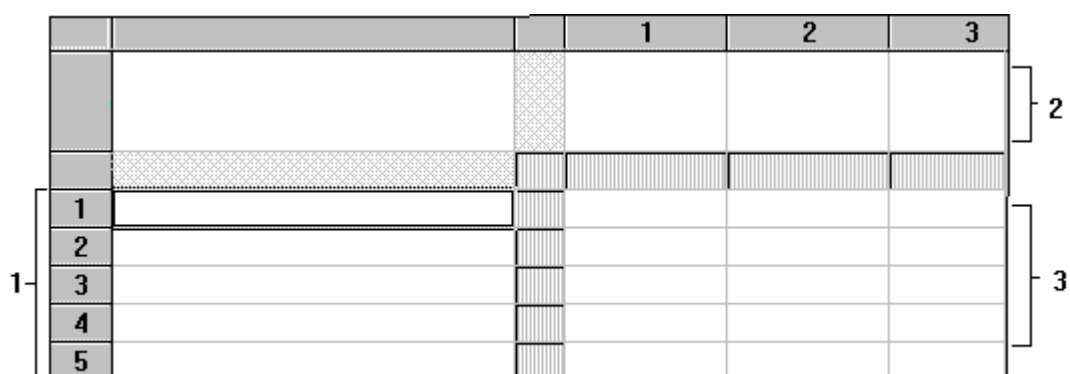
インジケータ	説明
CRITERIA	データの表示に影響を与える表示基準が選択したレポート領域で設定されています。
DISPLAY	表示オプション（データが含まれていない列または行の非表示など）が選択したレポート領域で設定されています。
IMPORT	インポートオプションがレポートで設定されています。
SPACING	レイアウトオプション（列幅など）が選択したレポート領域で設定されています。

レポートウィンドウ

レポートの作成と管理には、レポートウィンドウを使用します。標準レポートウィンドウには、行見出し、列見出し、およびデータの各領域があります。複合レポートウィンドウには、これらの領域に加えて、複合レポートに組み込まれたレポートのタブがウィンドウの一番下に表示されます。

次の図に、標準レポートウィンドウの領域を示します。

図 8 レポートウィンドウの領域



1. 見出しは、列または行のどちらでも含めることができます。
2. レポートウィンドウで、データは一連のシャープ（#）として表示されます。数値形式の結果は、レポートをプレビューまたは印刷する場合にのみ表示されます。

次の図に、複合レポートウィンドウの一番下に表示されるレポートタブを示します。

図 9 複合レポートウィンドウのタブ



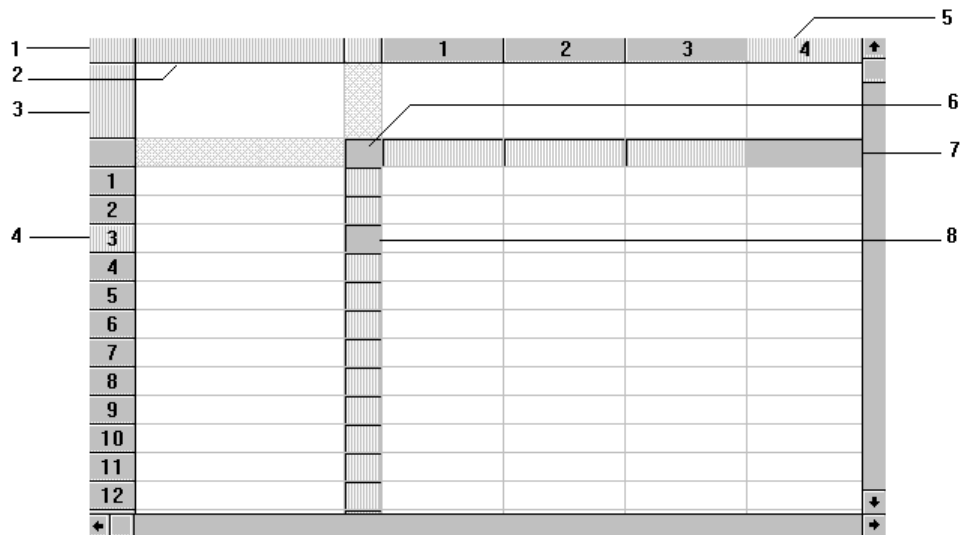
次の表に、レポートウィンドウで利用できるキーボードおよびマウスのショートカットを示します。

表 3 レポートで利用できるキーボードおよびマウスのショートカット

ショートカット	説明
[Home] キー	最初のデータ列を表示範囲内に移動します。
[End] キー	最後のデータ列を表示範囲内に移動します。
[Ctrl] キーを押しながら [Home] キーを押す	カーソルを最初の行見出しに移動します。
[Ctrl] キーを押しながら [End] キーを押す	カーソルを最後の行見出しに移動します。
[Shift] キーを押しながら [Home] キーを押す	カーソルを最初の列見出しに移動します。
[Shift] キーを押しながら [End] キーを押す	カーソルを最後の列見出しに移動します。
[F2] キー	カーソルを計算式バーの編集ボックスに移動します。
[Shift] キーを押しながら [F2] キーを押す	[計算式の編集] ダイアログボックスを表示します。
[F4] キー	列軸と行軸を回転します。
任意のレポートウィンドウ領域で右マウスボタンをクリックする	切り取り、コピー、貼り付けなど、さまざまなタスクを実行するためのコマンドが含まれている浮動メニューを表示します。
データの視点バーで右マウスボタンをクリックする	[データの視点バーのカスタマイズ] ダイアログボックスにアクセスするための浮動メニューを表示します。
計算式バーで右マウスボタンをクリックする	[計算式バーのカスタマイズ] ダイアログボックスにアクセスするための浮動メニューを表示します。

レポートウィンドウには、編集または書式設定するレポート領域をハイライトするためのセクタもあります。次の図に、レポート領域のセクタを示します。

図 10 レポートウィンドウ領域のセクタ



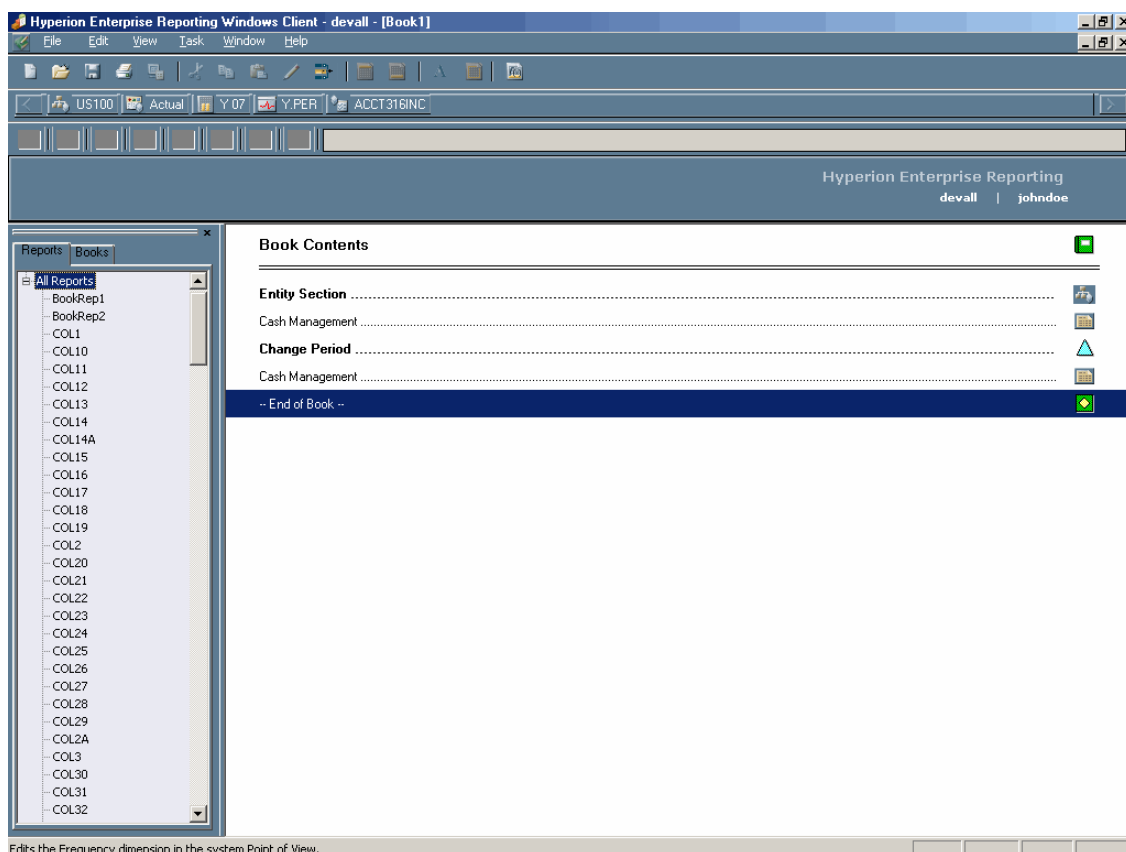
1. [すべて] セクタを使用すると、レポート全体がハイライトされます。
2. [すべての行見出し] セクタを使用すると、すべての行見出しがハイライトされます。
3. [すべての列見出し] セクタを使用すると、すべての列見出しがハイライトされます。
4. [特定の番号の行全体] セクタを使用すると、個々の行の見出しとデータがハイライトされます。
5. [特定の番号の列全体] セクタを使用すると、個々の列の見出しとデータがハイライトされます。
6. [すべてのデータ] セクタを使用すると、すべてのデータがハイライトされます。
7. [列データ] セクタを使用すると、個々の列のデータのみがハイライトされます。
8. [行データ] セクタを使用すると、個々の行のデータのみがハイライトされます。

パッケージウィンドウ

パッケージウィンドウでパッケージを作成および管理するには、一緒に実行するレポートのグループを設定します。レポートを識別し、特定のディメンションで実行するには、パッケージに行を挿入します。

次の図に、パッケージウィンドウのパッケージを示します。

図 11 パッケージウィンドウの領域



パッケージの各行の最後には、その行が定義する内容を示すアイコンが表示されます。例えば、前の図では、「Entity Section」という行の最後にエンティティのディメンションを表すアイコンが表示されています。

プレビューウィンドウ

プレビューウィンドウでは、レポートを印刷する前に、レポートをプレビューして出力を確認できます。プレビューウィンドウには、レポートのデータ、タイトル、および書式が表示されます。レポートは、プレビューウィンドウから印刷することも、レポートのスプレッドシート表示形式に戻って、計算式や書式を変更してから印刷することもできます。詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』または Hyperion Enterprise Reporting ヘルプを参照してください。

次の図に、プレビューウィンドウを示します。













図 12 プレビューウィンドウ



Hyperion Reporting - TEST - [Q_FMT_RG.RPT]				
<div> <div>First</div> <div>Last</div> <div>Next</div> <div>Previous</div> <div>Goto</div> <div>Zoom</div> <div>Print</div> <div>Margins</div> <div>Close</div> </div>				
	Investment in Subsidiaries			
	JAN. 2002	FEB. 2002	MAR. 2002	
Juniper Paper	48,918,097	48,918,097	48,918,097	
Evergreen Paper	52,476,870	52,476,870	52,476,870	

ダイアログボックスのアイコン

一部のダイアログボックスに表示されるアイコンを使用すると、一覧で次の項目または前の項目をハイライトするなど、さまざまなタスクを実行できます。次の表に、システムでダイアログボックスに表示されるアイコンを示します。

表 4 ダイアログボックスのアイコン

アイコン	行われる操作
	使用可能なオプションをすべて選択または選択解除します。例えば、自動更新機能をオンまたはオフにします。
	前の選択内容を検索します。 注：「検索」ボックスにテキストを入力するとアクティブになります。
	次の選択内容を検索します。 注：「検索」ボックスにテキストを入力するとアクティブになります。
	一覧を更新します。
	選択した項目を一覧で 1 つ上に移動します。
	選択した項目を一覧で 1 つ下に移動します。
	値、ファイル名、またはパスを検索します。
	選択した一覧に追加します。
	選択した一覧から削除します。
	標準レポートを作成します。
	レポートのパッケージを作成します。
	複合レポートを作成します。

アイコン	行われる操作
	選択したすべてのフィルタの要約を取得します。
	フィルタオプションを選択します。

システムメニュー

Hyperion Enterprise Reporting でタスクを実行する場合、通常はメニューからコマンドを選択します。一部のシステムメニューは、レポートウィンドウ、パッケージウィンドウ、またはメインウィンドウのいずれがアクティブかによって使用できるかどうかが決まります。

【ファイル】メニュー

メニューバーには、レポートとパッケージを開いたり、保存や印刷を行うための【ファイル】メニューが表示されます。【ファイル】メニューには、最近開いたレポートまたはパッケージが4つ表示されます。【ファイル】メニューは、次のタスクにも使用されます。

- Microsoft Excel へのレポートのエクスポート
- アクティブなレポートまたはパッケージに関する要約情報の表示と変更
- レポートの印刷プレビュー
- レポートまたはパッケージの個別印刷または連続印刷
- ページの書式設定
- プリンタの選択
- アプリケーションの選択
- Hyperion Enterprise Reporting の終了

【ファイル】メニューで使用できるコマンドは、どのウィンドウがアクティブかによって異なります。例えば、【プレビュー】コマンドは、レポートウィンドウがアクティブになっている場合にのみ使用できます。

【編集】メニュー

レポートウィンドウまたはパッケージウィンドウがアクティブになっていると、メニューバーに【編集】メニューが表示されます。レポート領域またはパッケージ領域の切り取り、コピー、貼り付け、および削除を行うには、【編集】メニューを使用します。【編集】メニューは、次のタスクにも使用されます。

- 列、行、およびセクションの挿入
- デイメンションとセクションの編集
- デイメンションの変更の挿入
- データ計算式とタイトル計算式の編集
- Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点の設定

- レポートまたはパッケージのデータの視点の設定
- 計算式バーの編集ボックスへのカーソルの移動。[F2] キーを押しても実行できます。
- 列軸と行軸の回転。[F4] キーを押しても実行できます。

〔編集〕メニューに表示されるコマンドは、レポートウィンドウとパッケージウィンドウのどちらがアクティブになっているか、およびレポートまたはパッケージのどの領域を選択しているかによって異なります。例えば、〔プロンプト値の貼り付け〕コマンドは、パッケージウィンドウがアクティブになっている場合にのみ表示されます。〔行の挿入〕コマンドは、レポートウィンドウで行を選択した場合にのみ表示されます。

〔表示形式〕メニュー

メニューバーに〔表示形式〕メニューが表示されます。ツールバー、データの視点バー、ステータスバー、レポートおよびパッケージのフォルダ構造を表示または非表示にしたり、計算式バーの編集ボックスでデータ計算式またはタイトル計算式を表示したりするには、〔表示形式〕メニューを使用します。レポートウィンドウがアクティブになっている場合は、〔表示形式〕メニューを使用して次のタスクも実行できます。

- 〔ドラフト〕オプションの選択または選択解除。〔ドラフト〕オプションを使用すると、短時間でデータを処理できますが、レポートウィンドウの書式オプションは無視されます。
- 〔定義〕オプションの選択または選択解除。〔定義〕オプションを使用すると、列見出しと行見出しの表示と、列と行を定義する計算式の表示を切り替えることができます。
- ヘッダーとフッターの編集
- アクティブなウィンドウのレポートに他のレポートをインポートするためのオプションの選択
- 複合レポートのレイアウトの選択
- 複合レポート間の切り替え

〔書式〕メニュー

レポートウィンドウがアクティブになっていると、メニューバーに〔書式〕メニューが表示されます。レポート領域に次の項目を設定するには、〔書式〕メニューを使用します。

- フォント
- 網掛けと枠線
- 数値の単位、書式、四捨五入、計算順序、および勘定科目の各属性
- ページの向き、列見出しの配置、行見出しの配置などのレイアウトオプション
- ゼロ値、データなし、計算式エラー、またはゼロによる除算エラーが含まれているセルの表示および非表示オプション
- 列見出しと行見出しの定義

- 列と行のソート
- 表示基準
- 展開
- 調査

[タスク] メニュー

メニューバーに [タスク] メニューが表示されます。[タスク] メニューは、次のタスクに使用されます。

- データの視点バーと計算式バーにおけるディメンションの管理
- Hyperion Enterprise Reporting Web の展開オプションの設定
- データの視点バーのカスタマイズオプションの設定
- レポートウィザードを使用した動的なアドホッククエリの作成
- アクティブなレポートに特性を割り当てるレポートオプションの設定

注： パッケージセットは、Hyperion Enterprise と Hyperion Enterprise Reporting for Essbase でサポートされていますが、Hyperion Enterprise SE では使用できません。

[ウィンドウ] メニュー

レポートウィンドウまたはパッケージウィンドウが開いていると、メニューバーに [ウィンドウ] メニューが表示されます。開いているすべてのレポートウィンドウやパッケージウィンドウを重ねて表示する、並べて表示する、閉じる、開いている別のレポートウィンドウまたはパッケージウィンドウにアクセスするなどの操作には、[ウィンドウ] メニューを使用します。

[ヘルプ] メニュー

メニューバーに [ヘルプ] メニューが表示されます。Hyperion Enterprise Reporting ヘルプ、このガイドのオンライン版、『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』のオンライン版、または Hyperion Enterprise Reporting とシステムの使用可能メモリに関する情報にアクセスするには、[ヘルプ] メニューを使用します。詳しくは、[8 ページの「Hyperion Enterprise Reporting ヘルプ」](#)を参照してください。

アプリケーションの選択

Hyperion Solutions 製品アプリケーションのユーザ名とパスワードがあれば、Hyperion Enterprise Reporting をこれらのアプリケーションとともに使用できます。アプリケーションは、Hyperion Enterprise Reporting を起動するたびに選択します。Hyperion Enterprise Reporting を再起動しなくても、別のアプリケーションに切り替えることができます。

アプリケーションにログオンすると、ユーザ ID とパスワードを入力するように求めるメッセージが表示される場合があります。ユーザ名はシステム管理者によって割り当てられ、Hyperion Enterprise Reporting Getting Started パスワードは、アプリケーションの管理に使用する Hyperion Solutions 製品でユーザ自身が設定します。

▶ アプリケーションを選択するには、次の手順に従います。

- 1 Hyperion Enterprise Reporting のメインウィンドウで、[ファイル] メニューの [アプリケーションの選択] を選択します。
- 2 Hyperion Enterprise Reporting のログオンダイアログボックスが表示されたら、ユーザ名とパスワードを入力して、Hyperion Solutions 製品を選択します。

注： Essbase の場合は、サーバも選択する必要があります。

- 3 [接続] ボタンをクリックします。
- 4 アプリケーションを選択します。

注： Essbase の場合は、アプリケーションセットも選択する必要があります。

- 5 [OK] をクリックします。

注： 新しいアプリケーションを選択すると、開いているレポートまたはパッケージを保存するように求めるメッセージが表示されます。レポートまたはパッケージを閉じるときに [キャンセル] をクリックすると、前のアプリケーションが再び表示され、元のアプリケーションに戻ったことを通知するメッセージが表示されます。

Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点の設定

システム管理者が Hyperion Enterprise で設定したデータの視点は各アプリケーションに継承されますが、Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点はいつでも変更することができます。新しい設定は、設定を再び変更するまで有効です。Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点に加えた変更内容は、使用しているユーザ ID に適用され、Hyperion Enterprise アプリケーションには影響を与えません。Hyperion Enterprise Reporting を終了すると、Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点は自動的に保存されるので、変更内容は次のセッションで適用されます。データの視点について詳しくは、[13 ページの「データの取得とデータの視点」](#)を参照してください。

レポートには、現在のアプリケーションで使用されるのと同じ数のディメンションを含めることができます。各ディメンションは、Hyperion Enterprise Reporting におけるデータの視点で使用できます。データの視点バーには、これらのディメンションを必要な数だけ表示できます。詳しくは、[39 ページの「ディメンションのカスタマイズ」](#)を参照してください。

- ▶ Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点を設定するには、次の手順に従います。
- 1 任意のレポートウィンドウまたはパッケージウィンドウのデータの視点バーで、ディメンションに対応するボタンをクリックします。
 - 2 Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点で設定するディメンションのタブをクリックし、ディメンション ID を選択します。
 - 3 [OK] をクリックします。

ヒント： データの視点バーを使用せずに、[編集] メニューの [データの視点] を選択し、[ディメンション] を選択することもできます。ここで、[ディメンション] はディメンション名です。

ディメンションのカスタマイズ

Hyperion Enterprise Reporting を次のようにカスタマイズするには、ディメンションをカスタマイズします。

- ディメンションへのカスタムピクチャの追加
- ディメンションのピクチャの変更
- デフォルトピクチャの変更
- カスタムピクチャの追加

すべての変更内容は使用しているユーザ ID にのみ適用されます。新しい設定は、設定を再び変更するまで有効です。

この章の内容

Hyperion Enterprise Reporting メインウィンドウ	42
レポートウィンドウまたはパッケージウィンドウを開く	42
レポートまたはパッケージのデータの視点の設定	43
レポートの基礎	43
パッケージの基礎	48
レポートとパッケージの印刷	50
連続モードの印刷	51
レポートおよびパッケージの管理	51

この章では、Hyperion Enterprise Reporting の概要を簡単に説明し、次のタスクの手順を示します。

- レポートウィザードを使用した簡単なレポートの作成
- 簡単なレポートパッケージの作成

Hyperion Enterprise Reporting は、ビジネスユーザと財務管理担当者を対象に設計されています。Microsoft Excel などのスプレッドシートプログラムを使用したことがあれば、Hyperion Enterprise Reporting を使用してレポートを簡単に作成できます。

レポートは個別に実行することも、複数のレポートを含むパッケージを作成して同時に実行することもできます。例えば、毎月実行するレポートをまとめたパッケージを作成できます。

作成したレポートまたはレポートのパッケージは、関連するレポートまたはパッケージをまとめたレポートセットまたはパッケージセットに割り当てます。例えば、損益計算書のレポートセットと貸借対照表のレポートセットを作成したり、部門別に実行する複数のレポートセットやパッケージセットを作成することもできます。

レポートとパッケージは用紙に印刷するか、ファイルに出力できます。レポートまたはパッケージの全体を印刷することも、特定のページ範囲を印刷することもできます。また、複数のレポートまたはパッケージを連続印刷することもできます。

注： パッケージセットは、Hyperion Enterprise と Essbase でサポートされていません。

Hyperion Enterprise Reporting メインウィンドウ

Hyperion Enterprise Reporting を起動すると、メインウィンドウが表示されます。メインウィンドウから、レポートやパッケージを作成または編集するためのレポートウィンドウとパッケージウィンドウを開くことができます。

メインウィンドウには以下のコントロールがあり、これらはレポートウィンドウとパッケージウィンドウにも表示されます。

- メニューバー。他の Windows アプリケーションのメニューバーと同様に機能します。メニューバーには、さまざまなウィンドウでタスクを実行するためのメニューが一覧表示されます。
- ツールバー。他の Windows アプリケーションのツールバーと同様に機能します。ツールバーから、Hyperion Enterprise Reporting でよく使用されるメニューコマンドに簡単にアクセスできます。
- データの視点バー。デフォルトのディメンション設定を示します。データの視点バーのボタンをクリックして Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点を変更できます。また、レポートを作成するか開いてから、[編集] メニューのコマンドを使用してレポートまたはパッケージのデータの視点を設定することもできます。
- 計算式バー。レポートを作成または編集する場合に、ディメンションを割り当てたり、ディメンションの設定を変更したりするボタンが表示されます。計算式バーには、列および行のデータ計算式とタイトル計算式を表示する編集ボックスも表示されます。


注： ディメンションに対応するボタンを追加または削除して、データの視点バーと計算式バーをカスタマイズできます。[タスク] メニューのオプションを使用するか、ディメンションを右クリックしてください。


- ステータスバー。ハイライトされたメニューコマンドの簡単な説明を表示します。レポートウィンドウのステータスバーには、選択したレポート領域で設定されている書式オプションも表示されます。

レポートウィンドウまたはパッケージウィンドウを開く

レポートウィンドウまたはパッケージウィンドウを開くには、以下のツールバーボタンを使用します。

表 5 レポートウィンドウとパッケージウィンドウのツールバーボタン

ボタン	メニューコマンド	説明
	[ファイル] メニューの [新規作成]	標準レポート、複合レポート、またはレポートパッケージを作成するには、[新規作成] ボタンをクリックします。

ボタン	メニューコマンド	説明
	[ファイル] メニューの [開く]	レポートまたはパッケージを開くには、[開く] ボタンをクリックします。

[新規作成] ボタンをクリックするか、[ファイル] メニューの [新規作成] を選択したら、新規の標準レポートウィンドウを開く場合は [標準レポート]、新規の複合レポートウィンドウを開く場合は [複合レポート]、新規のパッケージウィンドウを開く場合は [レポートパッケージ] を選択します。

[開く] ボタンをクリックするか、[ファイル] メニューの [開く] を選択したら、レポートウィンドウを開く場合は [レポート] タブ、パッケージウィンドウを開く場合は [パッケージ] タブをクリックします。

レポートまたはパッケージのデータの視点の設定

レポートまたはパッケージに含まれたディメンションにデータの視点を割り当てるには、[編集] メニューの [レポートにおけるデータの視点] および [パッケージにおけるデータの視点] を使用します。レポートまたはパッケージのデータの視点をディメンションに割り当てない場合、レポートまたはパッケージでは、Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点がこのディメンションに使用されます。

Hyperion Enterprise の例

レポートまたはパッケージのデータの視点のエンティティとして「Diamond Business Papers」を選択した場合、そのレポートまたはパッケージには、別のエンティティを指定しない限り「Diamond Business Papers」に関するデータが表示されます。

注： レポートのデータの視点は、パッケージのデータの視点を上書きします。詳しくは、[13 ページの「データの取得とデータの視点」](#)を参照してください。

レポートの基礎

レポートの作成と編集には、スプレッドシートに似たレポートウィンドウを使用します。レポートを作成するには、レポートの列または行を選択してディメンションを割り当てます。例えば、行 1 を選択して計算式バーの [勘定科目] ボタンをクリックし、行に割り当てる勘定科目を選択します。





[表示形式] メニューの [インポートオプション] を使用すると、部分的なレポートを作成して保存し、他のレポートにインポートできます。

7 ～ 12 月の期間を表す列で構成される、「Last Half」というレポートを作成したとします。勘定科目を表す行で構成される「Expense Estimate」という別のレポートを作成した場合は、Last Half レポートをインポートして新しいレポートの列を設定できます。Expense Estimate レポートを実行すると、Last Half レポートの列が Income レポートに結合され、勘定科目を表す行と期間を表す列が出力されます。

レポートの計算式

レポートの行見出しと列見出しとして使用するタイトル計算式とデータ計算式をレポートで作成および編集するには、Hyperion Enterprise Reporting のツールを使用します。データ計算式には、データ関数とディメンション設定を貼り付けることができ、タイトル計算式、ヘッダー、およびフッターには、テキストとテキスト関数を貼り付けることができます。タイトル計算式とデータ計算式を作成するには、[編集] メニューの [計算式] を使用します。ヘッダーとフッターの計算式を作成および編集するには、[表示形式] メニューの [ヘッダー] または [フッター] を使用します。次の表に、計算式を作成、編集、および表示するためのツールバーボタンを示します。

表 6 計算式を編集するためのツールバーボタン



ボタン	メニューコマンド	説明
	[編集] メニューの [計算式]	[計算式の編集] ボタンをクリックすると、[計算式の編集] ダイアログボックスが表示され、レポート内の列と行のデータ計算式またはタイトル計算式を作成できます。
	[表示形式] メニューの [ヘッダー]	[ヘッダー] ボタンをクリックすると、[ヘッダー] ダイアログボックスが表示され、レポートのヘッダーを作成および編集できます。
	[表示形式] メニューの [フッター]	[フッター] ボタンをクリックすると、[フッター] ダイアログボックスが表示され、レポートのフッターを作成および編集できます。
 	[書式] メニューの [タイトル]	計算式バーの編集ボックスで列または行のデータ計算式とタイトル計算式の表示を切り替えるには、[データ計算式の表示] ボタンまたは [タイトル計算式の表示] ボタンをクリックします。編集ボックスにタイトル計算式が表示されると、矢印が上向きになり、編集ボックスにデータ計算式が表示されると、矢印が下向きになります。

例えば、列 1 と列 2 の差異を列 3 に表示するように設定するには、まず [データ計算式の表示] または [タイトル計算式の表示] ボタンを設定して、データ計算式を表示します。次に、列 3 を選択して、[編集] メニューの [計算式] を選択するか [計算式の編集] ボタンをクリックし、[計算式の編集] ダイアログボックスを表示します。[データ] から、列 1 と列 2 を比較する計算式に CHG 関数を貼り付けます。

レポートの書式

デフォルトの書式をレポートで使用することも、データおよび見出しに書式オプションを指定することもできます。レポート領域の書式オプションを指定するには、レポート領域を選択してから、[書式] メニューを選択するかツールバーの [書式] ボタンをクリックします。次の表に、使用可能なツールバーボタンを示します。

表 7 書式オプション

ボタン	メニューコマンド	説明
	[書式] メニューの [フォント]	[フォント] ボタンを使用すると、[書式] ダイアログボックスの [フォント] タブからフォントオプションを選択できます。次に、別のタブをクリックして、その他の書式オプションを選択できます。
	[書式] メニューの [網掛け] の [枠線]	[枠線の設定] ボタンをクリックすると、選択した列、行、データ、または見出しの周りに枠線が追加されます。

例えば、列見出しに下線を付けるには、見出しを選択してツールバーの [フォント] ボタンをクリックし、下線スタイルを選択します。

[書式] メニューには、次の書式コマンドも含まれています。

- レイアウトコマンドを使用すると、ページの向きの変更、ページの印刷順序の変更、行見出しの位置の変更、余白の設定、列見出しまたは行見出しの行数の指定、列見出しと行見出しの幅の設定、行または列の前後へのスペースまたは改ページの挿入などを行えます。
- 表示コマンドを使用するか条件を指定すると、行または列を非表示にできます。条件を指定した場合、その条件を満たす行または列は、レポートの出力に表示されません。ゼロ値の代わりに表示するテキストや、使用可能なデータがないセルに表示するテキストを指定することもできます。
- 見出しコマンドを使用すると、列見出しまたは行見出しのディメンションの説明を短縮したり、複数列にまたがる見出しを中央揃えにしたりできます。
- ソートコマンドを使用すると、選択した列または行を値の昇順または降順にソートしたり、見出しをアルファベット順にソートしたりできます。
- 展開オプションを使用すると、Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションの展開機能をオンとオフに切り替えたり、展開機能のオプションを設定したりできます。
- 調査オプションを使用すると、Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションの調査機能をオンとオフに切り替えたり、調査機能のオプションを設定したりできます。
- 基準オプションを使用すると、基準を指定し、その基準を満たす値の書式を設定することができます。例えば、負の値を赤で表示するように指定できます。

ヘッダーとフッター



ヘッダーとは、レポートの各ページの一番上に表示されるテキストで、フッターとは、各ページの一番下に表示されるテキストです。標準レポートのヘッダーとフッターを設定するには、[表示形式] メニューの [ヘッダー] または [フッター] を選択するか、ツールバーの [ヘッダーの表示] ボタンまたは [フッターの表示] ボタンをクリックします。これらのいずれかのコマンドを選択すると、ダイアログボックスが表示され、ヘッダーまたはフッターを作成するためのテキストを入力したり、テキスト関数を選択したりできます。ヘッダー全体またはフッター全体の書式を選択することも、ヘッダー行またはフッター行のセルごとに書式を選択することもできます。ヘッダーとフッターは、レポートを実行するときのみ表示されます。

注： 複合レポートのヘッダーとフッターを設定するには、[表示形式] メニューの [レイアウト] を選択します。

レポートの実行

レポートのディメンションに関するデータを生成するには、レポートを実行します。レポートを実行するには、出力を画面でプレビューするか、レポートを印刷します。レポートの作成中にレポートの出力をプレビューして、目的の外観が得られたら印刷できます。[ファイル] メニューの [プレビュー] または [印刷] を選択するか、対応するツールバーボタンをクリックすると、レポートを実行できます。次の表に、[印刷] オプションと [プレビュー] オプションを示します。

表 8 [プレビュー] オプションと [印刷] オプション

ボタン	メニューコマンド	説明
	[ファイル] メニューの [印刷]	アクティブなレポートまたはパッケージを印刷するには、[印刷] ボタンをクリックします。レポートまたはパッケージの出力は、プリンタまたはファイルに送信できます。
	[ファイル] メニューの [プレビュー]	アクティブなレポートをプレビューするには、[プレビュー] ボタンをクリックします。

サンプルレポートの作成と実行

この例では、サンプルの差異レポートを作成して実行します。

➤ サンプルレポートを作成して実行するには、次の手順に従います。

1 Hyperion Enterprise Reporting を起動して、次の操作を行います。

- メインウィンドウで [ファイル] メニューの [新規作成] を選択するか、ツールバーの [新規作成] ボタンをクリックします。
- [標準レポート] を選択し、[OK] をクリックします。

ヒント： 手順 2 と 3 の代わりに、レポートウィザードを使用することもできます。方法については、この章の「レポートウィザードを使用したサンプルレポートの作成と実行」の項を参照してください。

2 行の勘定科目を設定するには、次の操作を行います。

- 最初の行の左側の番号をクリックして、最初の行を選択します。
- **[編集]** メニューから **[ディメンション]**、**[勘定科目]** の順に選択するか、計算式バーの **[勘定科目]** ボタンをクリックします。
- **[使用可能項目]** リストで、単一の勘定科目をダブルクリックするか、左マウスボタンを押したままポインタをドラッグして複数の勘定科目を選択して、**[選択項目に追加]** ボタンをクリックします。操作が完了したら、**[OK]** をクリックします。

3 列の期間を設定するには、次の操作を行います。

- 最初の列の上の番号をクリックして、最初の列を選択します。
- **[編集]** メニューから **[ディメンション]**、**[期間]** の順に選択するか、計算式バーの **[期間]** ボタンをクリックします。
- **[Available Period (使用可能な期間)]** リストで、2 つの期間を選択します。単一の期間をダブルクリックするか、左マウスボタンを押したままポインタをドラッグして各期間を選択して、**[選択項目に追加]** ボタンをクリックします。操作が完了したら、**[OK]** をクリックします。

4 列 1 と列 2 の差異を示す 3 番目の列を設定するには、列 3 を選択して、次の操作を行います。

- ツールバーの **[データ計算式の表示]** または **[タイトル計算式の表示]** ボタンをクリックして、計算式バーの編集ボックスにデータ計算式を表示します。
- **[編集]** メニューの **[計算式]** を選択するか、ツールバーの **[計算式の編集]** ボタンをクリックします。
- **[データ]** タブで、**[種類]** ドロップダウンリストから **[財務計算関数]** を選択し、**[関数]** ドロップダウンリストから **[PBE]** を選択して、**[関数の貼り付け]** ボタンをクリックします。
- **[データ計算式]** ボックスで、開きかっこの後の空白スペースを選択して「1」と入力し、コンマの後の空白スペースを選択して「2」と入力したら、**[OK]** をクリックします。
- 計算式バーの編集ボックスに「% Variance」と入力し、**[Enter]** キーを押します。

5 すべての列見出しを選択し、[書式] メニューの [フォント] を選択するかツールバーの [フォント] ボタンをクリックして、列のフォントを変更します。[下線] ドロップダウンリストから [一重線] を選択し、[OK] をクリックします。

6 「% Variance」という列見出しを選択し、[書式] メニューの [フォント] を選択するかツールバーの [フォント] ボタンをクリックして、列見出しのフォントを変更します。[色] ドロップダウンリストから [赤] を選択し、[OK] をクリックします。

7 [ファイル] メニューの [プレビュー] を選択するか、ツールバーの [プレビュー] ボタンをクリックして、レポートの出力を表示します。次に、[閉じる] ボタンをクリックして、レポートウィンドウに戻ります。

- 8 [ファイル] メニューの [保存] を選択し、ファイル名を入力してからセットタイトルを選択し、[OK] をクリックしてレポートを保存します。

レポートウィザードを使用したサンプルレポートの作成と実行

この例では、レポートウィザード機能を使用して、レポートとして保存するサンプルクエリを作成します。レポートとして保存したクエリは、レポートウィンドウで再定義できます。

- ▶ レポートウィザードを使用してサンプルレポートを作成および実行するには、次の手順に従います。

- 1 Hyperion Enterprise Reporting を起動して、次の操作を行います。
 - メインウィンドウで [ファイル] メニューの [新規作成] を選択するか、ツールバーの [新規作成] ボタンをクリックします。
 - [標準レポート] を選択し、[OK] をクリックします。
- 2 [タスク] メニューの [レポートウィザード] を選択します。
- 3 行の勘定科目を設定するには、次の操作を行います。
 - [勘定科目] アイコンを [レポート] 軸から [行] 軸にドラッグします。
 - [Edit Dimensions - Account (ディメンションの編集 - 勘定科目)] ダイアログボックスで、収益勘定科目と費用勘定科目を選択します。[使用可能項目] リストで、単一の勘定科目をダブルクリックして選択するか、[Ctrl] キーを押しながら目的の勘定科目をクリックして、[選択項目に追加] アイコンをクリックします。操作が完了したら、[OK] をクリックします。
- 4 列の期間を設定するには、次の操作を行います。
 - [期間] アイコンを [レポート] 軸から [列] 軸にドラッグします。
 - [Edit Dimensions - Period (ディメンションの編集 - 期間)] ダイアログボックスで、[Available Period (使用可能な期間)] リストから2つの期間を選択します。単一の期間をダブルクリックして選択するか、[Ctrl] キーを押しながら目的の期間をクリックして、[選択項目に追加] アイコンをクリックします。操作が完了したら、[OK] をクリックします。
- 5 [レポートウィザード] ダイアログボックスで [OK] をクリックし、現在のレポートを上書きするかどうかを尋ねるメッセージが表示されたら、[はい] ボタンをクリックします。

パッケージの基礎

パッケージを作成するにはレポートを挿入し、パッケージセットを作成するにはパッケージを挿入します。パッケージには、セクションやディメンションの変更を挿入することもできます。セクションを挿入すると、同一のディメンションに別の値を指定してレポートが複数回実行され、ディメンションの変更を挿入すると、現在のディメンションが新しい値で置換されます。パッケージとパッケージセットの作成および編集には、パッケージウィンドウを使用します。詳しくは、

『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』または Hyperion Enterprise Reporting ヘルプを参照してください。

注： パッケージセットは、Hyperion Enterprise と Essbase でサポートされています。

レポートの挿入

開いているパッケージにレポートを挿入するには、[編集] メニューの [レポートの挿入] を選択するか、ツールバーの [レポートの挿入] ボタンをクリックして、[レポートの挿入] ダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスで、挿入するレポートを選択します。レポートは、パッケージでハイライトされた行の上または下に配置できます。ハイライトされた行がセクションを表す場合は、そのセクション内にレポートを配置できます。

パッケージセクションの挿入

同一のディメンションに別の値を指定してレポートを複数回実行し、データを生成するには、パッケージにセクションを挿入します。

- ▶ セクションを挿入するには、[編集] メニューの [セクションの挿入] を選択します。

Hyperion Enterprise の例

「Diamond Business Papers」、「Evergreen Paper Company」、および「Juniper Paper Company」が含まれるエンティティセクションを挿入し、このエンティティセクションに Profit and Loss % Variance レポートを挿入すると、このレポートをエンティティごとに 1 回ずつ、合計 3 回印刷できます。

Essbase の例

「SELTZER」、「SODA」、「COLA」、および「TONIC」が含まれる製品セクションを挿入し、この製品セクションに Profit and Loss % Variance レポートを挿入すると、このレポートを製品ごとに 1 回ずつ、合計 4 回印刷できます。

ディメンションの変更のパッケージへの挿入

ディメンションの変更を挿入すると、同じディメンションが次回変更されるか、パッケージの他の部分が次回変更されるまで、ディメンションがリセットされます。

Hyperion Enterprise の例

現在のデータの視点のエンティティが Diamond Business Papers である場合は、任意の行を選択して、パッケージの他の部分のエンティティを Evergreen Paper Company に変更できます。

Essbase の例

現在のデータの視点の製品が SELTZER である場合は、任意の行を選択して、パッケージの他の部分の製品を TONIC に変更できます。

サンプルパッケージの作成

この例では、複数の期間にわたって同一レポートを実行するサンプルパッケージを作成します。

- ▶ サンプルパッケージを作成するには、次の手順に従います。
- 1 Hyperion Enterprise Reporting を起動して、次の操作を行います。
 - メインウィンドウで [ファイル] メニューの [新規作成] を選択するか、ツールバーの [新規作成] ボタンをクリックします。
 - [レポートパッケージ] を選択し、[OK] をクリックします。
- 2 パッケージのセクションを設定するには、次の操作を行います。
 - [編集] メニューの [セクションの挿入] から [期間] の順に選択します。
 - [使用可能項目] リストで、単一の期間をダブルクリックして選択するか、左マウスボタンを押したままポインタをドラッグし、複数の期間を選択して、[選択項目に追加ボタン] をクリックします。操作が完了したら、[OK] をクリックします。
- 3 期間セクションにレポートを挿入するには、セクションをハイライトし、[編集] メニューの [レポートの挿入] を選択するか、ツールバーの [レポートの挿入] ボタンをクリックします。次に、[ファイル名] リストからレポートを選択し、[OK] をクリックします。
- 4 パッケージを保存するには、[ファイル] メニューの [保存] を選択して、ファイル名、タイトル、およびコメントを入力し、[OK] をクリックします。

レポートとパッケージの印刷

レポートとパッケージは、プリンタまたはファイルに送信できます。レポートまたはパッケージの全体を印刷することも、特定のページ範囲を印刷することもできます。また、複数のレポートまたはパッケージを連続印刷することもできます。レポートまたはパッケージを用紙に印刷するか、ファイルに出力するには、[ファイル] メニューの [印刷] を選択します。一連のレポートまたはパッケージを印刷するには、[ファイル] メニューの [連続印刷] を選択します。詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』または Hyperion Enterprise Reporting ヘルプを参照してください。

連続モードの印刷

[連続印刷] ダイアログボックスには、次の 4 つのタブがあります。

- レポート
- パッケージ
- レポートセット
- パッケージセット (Hyperion Enterprise SE では使用できません。)

▶ 連続モードで印刷するには、次の手順に従います。

- 1 Hyperion Enterprise Reporting のメインウィンドウで、[ファイル] メニューの [連続印刷] を選択します。
- 2 印刷する項目を選択し、[OK] をクリックします。

レポートおよびパッケージの管理

レポートとパッケージの管理は、左側のナビゲーションペインで行います。レポートとパッケージの管理は、次のタスクで構成されます。

- レポートセットまたはパッケージセットの作成
- レポートセットまたはパッケージセットへのレポートまたはパッケージの追加
- レポートセットまたはパッケージセットでのレポートまたはパッケージの検索
- レポートセットまたはパッケージセットでのレポートまたはパッケージのソート
- レポートセットまたはパッケージセットからのレポートまたはパッケージの削除
- レポートまたはパッケージのチェック
- レポートセットまたはパッケージセットおよびレポートまたはパッケージのアプリケーションからの削除
- レポートセットまたはパッケージセットの情報の編集
- レポートまたはパッケージの情報の編集
- レポート、パッケージ、レポートセット、およびパッケージセットのセキュリティクラスの変更

注： パッケージセットは、Hyperion Enterprise と Essbase でサポートされています。セキュリティクラスは、オラクル社の HyperionR EnterpriseR でのみサポートされています。

詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』または Hyperion Enterprise Reporting ヘルプを参照してください。

この章の内容

ディメンションとディメンションアイコン	53
Hyperion Enterprise の Hyperion Enterprise Reporting 関数	55
Hyperion Enterprise Reporting for Essbase の関数	58

ディメンションとディメンションアイコン







Hyperion Enterprise Reporting で使用できるディメンションは、使用する製品によって異なります。例えば、勘定科目ディメンションは Hyperion Enterprise アプリケーションで使用でき、対策ディメンションは Essbase アプリケーションで使用できます。





Hyperion Enterprise のディメンション

次の表に、Hyperion Enterprise で使用できるディメンションとディメンションアイコンを示します。

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

表 9 Hyperion Enterprise のディメンションとディメンションアイコン

ディメンション	Hyperion Enterprise のアイコン
エンティティ	
サブエンティティ	
データ種別	
期間	
期間単位	
勘定科目	

ディメンション	Hyperion Enterprise のアイコン
第 1 レベルサブ勘定科目	
第 2 レベルサブ勘定科目	
連結詳細	
親	
通貨	
フィールド	

Hyperion Enterprise Reporting for Essbase のディメンション

次の表に、Hyperion Enterprise Reporting for Essbase で使用できるディメンションとディメンションアイコンを示します。

注： Essbase にのみ該当します。

表 10 Hyperion Enterprise Reporting for Essbase のディメンション

ディメンション	Hyperion Enterprise Reporting for Essbase のアイコン
勘定科目	
フィールド	
時間	
通貨の種類	
通貨	
ビュー	
国	

注： ビューディメンションは、時間ディメンションが存在する場合にのみ使用できます。

Hyperion Enterprise の Hyperion Enterprise Reporting 関数

次の表に、Hyperion Enterprise の Hyperion Enterprise Reporting 関数の要約を示します。関数について詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』を参照してください。

表 11 Hyperion Enterprise の Hyperion Enterprise Reporting 関数

関数	説明
ABS - 絶対値	数式の絶対値を取得します。
@ACODE - 勘定科目コード	現在の勘定科目のコードを取得します。 注： Hyperion Enterprise SE では使用できません。
@ALL - すべて	現在または特定のエンティティ、勘定科目、またはサブ勘定科目のすべての子孫に列または行を作成します。Hyperion Enterprise で @ALL を使用すると、現在の親または特定の親のすべての子孫に列または行を作成することもできます。
@AMCODE - チャートロジックのコード	現在のエンティティに割り当てられたチャートロジックのコードを取得します。 注： Hyperion Enterprise SE では使用できません。
@APD - アプリケーションの説明	タイトルに表示された現在のアプリケーションの説明を取得します。
@APP - アプリケーション名	現在のアプリケーションまたはデータリポジトリの名前を取得します。
AS - 行／列と同じメンバ	別の番号の列または行と同じディメンション設定の列または行を作成します。
@ASK - ユーザへのプロンプト	レポートの実行時にディメンションを指定するように求めるメッセージを表示します。
AVG - 平均	列または行のグループの平均値を算出します。
@BAS - 最下位	現在のエンティティまたは特定のエンティティの最下位子孫に列または行を作成します。
BET - 差異を評価	2 つの列または行の値の差異を算出し、勘定科目の種類に基づいて差異の良否を示します。
@CAT - 期間単位	現在のデータ種別の期間単位を取得します。
CELL - 特定のセル値	特定のセル値をセルの列番号と行番号で指定します。
CHANGE - ディメンションの変更	レポートまたはパッケージでディメンションの変更にマーカを付けます。
@CHART - 入力ロジックの展開	入力ロジックに基づいて算出勘定を展開し、計算の詳細を表示します。
CHG - 差異の算出	2 つの行または列の値の差異を算出します。
@CMCODE - 連結ロジックのコード	現在のエンティティの連結ロジックのコードを取得します。 注： Hyperion Enterprise SE では使用できません。

関数	説明
@CMO - 現在のデータ種別の期間番号	現在のデータの視点の期間との関係に基づいて期間の行または列を作成します。
@CON - 子エンティティ	現在のエンティティまたは特定のエンティティより下位の概要エンティティに列または行を作成します。Hyperion Enterprise では、現在の親または特定の親より下位のエンティティに列または行を作成できます。
CPN - 現在の番号	現在の期間の番号を取得します。
@CUR - 現在のディメンション設定	現在のデータの視点設定を使用して、特定のディメンションに列または行を作成します。
@CURCY - 通貨テキスト	現在のエンティティの ID または説明を取得します。通貨の記号を取得することもできます。
@DAT - 期間の説明	現在の期間に関するカスタムの説明を取得します。
@DEP - 子	現在のエンティティまたは特定のエンティティのすべての子に列または行を作成します。Hyperion Enterprise では、現在の親または特定の親のすべての子に列または行を作成できます。 注： Hyperion Enterprise SE でのみ使用できます。
@DES - ディメンションの説明	現在のディメンションの説明を取得します。
DUR - 指定値	一連の列または行に指定された値または数式を示します。
@ECODE - エンティティコード	現在のエンティティのコードを取得します。 注： Hyperion Enterprise SE では使用できません。
@END - 終了期間	終了期間、または終了期間からオフセットされた期間に行または列を作成します。
@ENT - 親	親ディメンションの列または行を作成します。
@FLN - ファイル名	アクティブなレポートのファイル名を取得します。
@FLT - ファイルタイトル	アクティブなレポートのタイトルを取得します。
FOR - セクション	レポートまたはパッケージでセクションの開始にマーカを付けます。
@FRD - 期間単位の説明	現在の期間単位の説明を取得します。
@FRL - 期間単位のラベル	現在の期間単位の ID（ラベル）を取得します。
IFT - If Then 条件	数式の結果が負、ゼロ、正のいずれかに応じて、指定値またはテキストを表示します。
@IND - インデント	世代番号に基づいてテキストをインデントします。
@INDORG - 組織ごとのインデント	組織ごとの世代に基づいてテキストをインデントします。
@LAB - ディメンションのラベル	現在のディメンションの ID を取得します。

関数	説明
@LAD - 最下位勘定科目の説明	現在の勘定科目に関する最下位の説明を取得します。
@LAL - 最下位勘定科目のラベル	現在の勘定科目またはサブ勘定科目の最下位の ID を取得します。
LIST - 一覧	LIST をキーワード ACCOUNT とともに使用した場合は勘定科目一覧の勘定科目に、LIST をキーワード ENT とともに使用した場合はエンティティ一覧のエンティティに、列または行を定義します。
@LOCAL - ローカル見出し	列または行にローカル見出しを割り当てます。
@LRD - リンクされたレポート日付	リンクされたレポートオブジェクトの日付。
MUL - 乗算	2 つの列または行の値を乗算します。
@PAR - 親	親ディメンションの列または行を作成します。
PBE - 差異率を評価	2 つの列または行の値の差異率を算出し、差異の良否を決定します。
PCH - 差異率	2 つの行または列の差異率を算出しますが、差異を評価しません。
PCR - 構成比	現在の列または行の値を特定のセル値の比率として示します。
PCT - 比率（パーセント表示）	2 つの列または行の値の比率をパーセント単位で表します。
@PEDS - 期末データ	現在のレポート期間の終了日を選択した書式で表示します。 注： Hyperion Enterprise SE でのみ使用できます。
@PDES - 部分的な説明	サブエンティティまたはサブ勘定科目を持つエンティティまたは勘定科目に関する部分的な説明を取得します。
@PLAB - ディメンションの部分的なラベル	サブエンティティまたはサブ勘定科目を持つエンティティまたは勘定科目に関する部分的な ID（ラベル）を取得します。
@PSF - 連結ステータス	現在のエンティティの連結ステータスを取得します。 注： Hyperion Enterprise SE では使用できません。
RAT - 比率	2 つの行または列の値の比率を算出します。
REPORT - パッケージ内のレポート	パッケージに含まれたレポートを指定します。
RND - 四捨五入	最も近い指定値に数式の結果を四捨五入します。
@RNG - 範囲	ディメンション ID の範囲を取得します。
RPD - レポートディレクトリ	REPENG.INI ファイルの現在のレポートディレクトリ設定を取得します。
@SCALE - 現在のエンティティの単位	現在のエンティティの単位を表す数値を取得します。

関数	説明
@START - 開始期間	開始期間、または開始期間からオフセットされた期間に行または列を作成します。
@SUB - サブ勘定科目	指定した勘定科目のサブ勘定科目に列または行を作成します。
SUM - 合計	指定した列または行の値を加算します。
@TIM - 現在の時刻	現在のシステム時刻を取得します。
@TMCODE - 換算ロジックのコード	現在の換算ロジックのコードを取得します。 注： Hyperion Enterprise SE では使用できません。
@TOD - 現在の日付	現在のシステム日付を取得します。
@USR - ユーザ ID	現在のユーザの ID を取得します。
@VWD - ビューの説明	現在のビューの説明を取得します。
@VWL - ビューのラベル	現在のビューの ID を取得します。

Hyperion Enterprise Reporting for Essbase の関数

注： オラクル社の Essbase にのみ該当します。

次の表に、Oracle 社の HyperionR EnterpriseR Reporting for Essbase 関数の要約を示します。特に指定のない限り、この一覧のすべての関数は、フィールドディメンション以外のすべてのディメンションで使用できます。関数について詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』を参照してください。

表 12 Hyperion Enterprise Reporting for Essbase の関数

関数	説明
ABS - 絶対値	数式の絶対値を取得します。
@ALL - すべて	現在または特定のエンティティ、勘定科目、またはサブ勘定科目のすべての子孫に列または行を作成します。
@ALT - 現在のエイリアステーブル	現在のエイリアステーブルの名前を取得します。
@ANC - すべての祖先メンバ	特定のメンバまたは現在のメンバより 1 つ上位の祖先を取得します。
@APD - アプリケーションの説明	現在のアプリケーションの説明を取得します。
@APN - アプリケーションメモ	現在のアプリケーションメモの説明を取得します。
@APP - アプリケーション名	現在のアプリケーションまたはデータリポジトリの名前を取得します。

関数	説明
AS - 行／列と同じメンバ	別の番号の列または行と同じディメンション設定の列または行を作成します。
@ASK - ユーザへのプロンプト	レポートの実行時にディメンションを指定するように求めるメッセージを表示します。
AVG - 平均	列または行のグループの平均値を算出します。
@BAS - 最下位	現在のエンティティまたは特定のエンティティの最下位子孫に列または行を作成します。
BET - 差異を評価	2つの列または行の値の差異を算出し、差異の良否を示します。
@BOT - レベル0のすべてのメンバ	特定のメンバまたは現在のメンバの子孫メンバのうち、レベル0のメンバをすべて取得します。
CELL - 特定のセル値	特定のセル値をセルの列番号と行番号で指定します。
@CHL - 直属の子メンバ	特定のメンバまたは現在のメンバのすべての子を取得します。
CHANGE - ディメンション変更	レポートまたはパッケージでディメンションの変更にマーカを付けます。
CHG - 差異の算出	2つの行または列の値の差異を算出しますが、差異を評価しません。
@CUR - 現在のディメンション設定	現在のデータの視点設定を使用して、特定のディメンションに列または行を作成します。
@DEP - 子	現在のエンティティまたは特定のエンティティのすべての子に列または行を作成します。
@DES - ディメンションの説明	現在のディメンションの説明を取得します。
@DSC - 子孫メンバ	特定のメンバまたは現在のメンバのすべての子孫を取得します。
DUR - 指定値	一連の列または行に指定された値または数式を示します。
@FLN - ファイル名	アクティブなレポートのファイル名を取得します。
@FLT - ファイルタイトル	アクティブなレポートのタイトルを取得します。
FOR - セクション	レポートまたはパッケージでセクションの開始にマーカを付けます。
@GEN - 同じ世代のすべてのメンバ	特定のメンバまたは現在のメンバと同じ世代のメンバをすべて取得します。
IFT - If Then 条件	数式の結果が負、ゼロ、正のいずれかに応じて、指定値またはテキストを表示します。
@IND - インデント	世代番号に基づいてテキストをインデントします。
@LAB - ディメンションのID	現在のディメンションのIDを取得します。

関数	説明
LIST - 一覧	LIST をキーワード ACC とともに使用した場合は勘定科目一覧の勘定科目に、LIST をキーワード ENT とともに使用した場合はエンティティ一覧のエンティティに、列または行を定義します。
@LOCAL - ローカル見出し	列または行にローカル見出しを割り当てます。
@LRC	リンクされたレポートオブジェクトに追加されたコメントを取得します（フィールドディメンションでのみ使用できます）。
@LRD	現在リンクされているレポートオブジェクトの変更日を取得します（フィールドディメンションでのみ使用できます）。
@LRF	リンクされたレポートオブジェクトに追加されたファイルを取得します（フィールドディメンションでのみ使用できます）。
@LRI	現在リンクされているレポートオブジェクトのインデックスを取得します（フィールドディメンションでのみ使用できます）。
@LRO	追加されたファイルやコメントも含め、リンクされたレポートオブジェクトを取得します（フィールドディメンションでのみ使用できます）。
@LRT	現在リンクされているレポートオブジェクトの種類を取得します（フィールドディメンションでのみ使用できます）。
@LRU	現在リンクされているレポートオブジェクトのユーザを取得します（フィールドディメンションでのみ使用できます）。
@LVL - 同じレベルのすべてのメンバ	特定のメンバまたは現在のメンバと同じレベルのメンバをすべて取得します。
MUL - 乗算	2 つの列または行の値を乗算します。
@PAR - 親	特定のメンバの組み合わせの親の値を取得します。
PBE - 差異率を評価	2 つの列または行の値の差異率を算出し、差異の良否を決定します。
PCH - 差異率	2 つの行または列の差異率を算出しますが、差異を評価しません。
PCR - 構成比	現在の列または行の値を特定のセル値の比率として示します。
PCT - 比率（パーセント表示）	2 つの列または行の値の比率をパーセント単位で表します。
RAT - 比率	2 つの行または列の値の比率を算出します。
REPORT - パッケージ内のレポート	パッケージに含まれたレポートを指定します。
RND - 四捨五入	最も近い指定値に数式の結果を四捨五入します。
@RNG - 範囲	ディメンション ID の範囲を取得します。
@RPD - レポートディレクトリ	REPENG.INI ファイルのレポートディレクトリ設定で指定されている、現在のレポートディレクトリの名前を取得します。
@SED - セットの説明	現在のセットの説明を取得します。

関数	説明
@SET - セット名	現在のセットの名前を取得します。
@SIB - すべての兄弟	現在のメンバまたは特定のメンバのすべての兄弟を戻します。
@SLA - 左側にあるすべての兄弟	現在のメンバまたは特定のメンバの左側にあるすべての兄弟を取得します。ただし、メンバ自体は除きます。
@SLF - 左側にある最初の兄弟	現在のメンバまたは特定のメンバの左側にある最初の兄弟を取得します。
@SRA - 右側にあるすべての兄弟	現在のメンバまたは特定のメンバの右側にあるすべての兄弟を取得します。ただし、メンバ自体は除きます。
@SRF - 右側にある最初の兄弟	現在のメンバまたは特定のメンバの右側にある最初の兄弟を取得します。
@SRN - サーバ名	現在のサーバ名を取得します。
SUM - 合計	指定した列または行の値を加算します。
@TIM - 時刻	現在のシステム時刻を取得します。
@TOD - 日付	現在のシステム日付を取得します。
@TOP - 世代 2 のすべてのメンバ	ディメンションの最上位 ID のうち、親が未定義の ID に行または列を作成します。
@USR - ユーザ ID	現在のユーザの ID を取得します。
@WLD - ワイルドカードの指定と一致するすべてのメンバ	ワイルドカードの指定と一致するすべてのメンバを取得します。

用語集

!「感嘆符 (Bang character)」を参照。

#欠如 (#Missing) 「データの欠如 (Missing data)」を参照。

1 次キューブ (Primary cube) 最初のキューブ (ターゲットキューブ)。

1 次フィールドタイプ (Primary field types) アウトラインでメンバを定義するフィールド。

2 次キューブ (Secondary cube) 2 番目のキューブ (ソースキューブ)。

2 次フィールドタイプ (Secondary field types) アウトラインでエイリアスと属性を定義するフィールド。

2 パス計算 (Two-pass calculation) Essbase の属性。連結後に勘定科目メンバ、「連動計算 (保存なし)」メンバ、または「連動計算および保存」メンバを再計算する。

2 パスメンバ (Two-pass members) データベース内で計算する前に特定のデータ値を必要とするメンバ。

AND/OR メンバのサブセットを指定するために計算やレポートのスクリプトで使用される論理式。

API アプリケーションプログラミングインターフェイス。Essbase API は、Essbase サーバにアクセスするためにカスタム C または Visual Basic プログラムで利用できる関数ライブラリである。

Application manager Essbase アプリケーションの作成や管理を行うことができる Essbase ソフトウェア。

ARBORPATH Essbase ルートディレクトリを指定する環境変数。

CHARTDSM チャートロジック (CHARTDSM chart method) 自動的に生成され、消去、換算、比率、調整後などの連結詳細に対して実行される入力ロジック。

CHART ロジック (CHART method) システムが生成するデフォルトの入力ロジック。システム全体に適用されるステートメントや条件式を含む。

Create 変数 (Create variable) CREATEVARIABLE。新しい代替変数を定義する ESSCMD。

DataExtend データ (DataExtend data) Schedules モジュールの Hyperion DataExtend データベースで収集され保存されているテキストデータ。通常は、アプリケーション要素に代替ラベルを割り当てたり、予算や予測の差異を説明するために使用される。本社との間で Hyperion DataExtend のデータを送受信できる。

Dbname.db Essbase データベースファイル。corporate.db など。

Dbname.esm 特定のデータベースの Essbase データベースルートファイル。

Dbname.ind データベース内でデータのない領域を追跡する Essbase データベースファイル。

Dbname.otl Essbase アウトラインファイル。corporate.otl など。

Dbname.tct 特定のデータベース内でトランザクションを追跡するファイル。

DB 設計者 (DB designer) 「データベース設計者 (Database designer)」を参照。

Delete 変数 (Delete variable) DELETEVARIABLE。現在設定されている変数を削除する ESSCMD。

DYNVIEWACCTS 入力ロジック (DYNVIEWACCTS chart method)

自動的に生成される入力ロジック。連動表示勘定科目で計算式を入力するために使われる。連動表示勘定科目では、特定の関数しか使用できない。

Essbase.sec Essbase のセキュリティファイル。

EssCell Essbase のセル取得関数。EssCell 関数を Essbase Spreadsheet アドインのセルに入力して、特定のデータベースメンバの交点を表すデータベース値を 1 つ取得する。

ESSCMD バッチファイルを使用するか、インタラクティブにサーバ処理を行うためのコマンド行インターフェイス。「バッチファイル (Batch file)」も参照。

Essnnnn.pag 連番が付いたデータファイル。1 つのデータベースに属する。

Essnnnn.ind 連番が付いたインデックスファイル。1 つのデータベースに属する。

Fix ステートメント (Fix statement) 関数を実行する前に計算スクリプトに使用して、データベースの領域を特定する構文。

Flashback Essbase Spreadsheet アドインのコマンド。前回のデータベースビューを復元する。このコマンドは標準的な undo コマンドに似ている。

Hyperion Allocations Hyperion のモジュールの 1 つ。Hyperion Enterprise アプリケーションのデータを使用して値をエンティティ、勘定科目または期間に配賦できる。

Hyperion DataExtend Hyperion Schedules でテキストを入力し、それをデータまたは見出しとしてレポートに含めることのできる製品。

Hyperion Enterprise Reporting 財務データを現金出納報告書、予定財務諸表、損益計算書、貸借対照表などの形式で表すことのできる強力なグラフィックツール。Hyperion Solutions 製品アプリケーションのデータを取得して計算し、その表示方法を指定できる。

Hyperion Retrieve オラクル社の Enterprise Performance Management ソフトウェアのモジュールの 1 つ。スプレッドシートソフトウェアの分析、グラフおよびプレゼンテーション機能を使用できる。Microsoft Excel ワークシートから Hyperion のデータにアクセスできる。その後スプレッドシートソフトウェアでデータを分析、操作して、レポートやグラフを作成できる。

Hyperion Schedules Hyperion レポートをデータ入力用のフォームに変換するスプレッドシート形式のインターフェイス。

LedgerLink 重要なデータを変換して Hyperion Enterprise にインポートする処理を自動化するツール。LedgerLink を使用して、外部の各アプリケーションにカスタマイズしたテンプレートを設定する。それによって、データを含む ASCII ファイルを変更せずに、さまざまな元帳やフィードシステムからデータをインポートできる。

List 変数 (List variables) LISTVARIABLES。サーバのすべての代替変数を一覧表示する ESSCMD。

MDDb マルチディメンションデータベース。「マルチディメンション (Multidimensional)」も参照。

OK ステータス (OK status) エンティティがすでに連結されており、データが変化していないことを示す連結ステータス。この期間を連結する必要はありませんが、[すべての連結] または [データのあるもののすべての連結] を使用して強制的に連結を実行できる。

OTL 変更ファイルの適用 (Apply OTL change file)

APPLTOTLCHANGEFILE。1 つのアウトラインから別のアウトラインに抽出されたアウトラインの変更を適用するためにデータベース管理者が使用するコマンド。変更内容は.CHG ファイルから読み取られる。

OUTALTSELECT レポートまたは計算スクリプト内でエイリアステーブルを切り替える場合に使用するコマンド。

Partition Manager Essbase のツール。複製されリンクされたトランスペアレントなデータベースパーティションを簡単に作成して管理できる。Partition Manager には、パーティションの作成プロセスを順を追って説明する、複数のページで構成されたパーティションウィザードがある。

PDF 概念と手順に関する情報が含まれている Adobe Acrobat オンライン電子ガイド。

PVA 「期別値ロジック (Periodic value method.)」を参照。

QuickSend 送り先と内容が定義されている定型データパッケージ。QuickSend はメニューオプションとして表示される。

Quiet ポイント (Quiet point) データベースにアクティブなトランザクションがない時点。

Report Editor レポートスクリプトの記述に使用する SSCII テキストエディタ。Report Editor にはテキスト編集ウィンドウとカスタマイズメニューがある。保存したレポートスクリプトにはファイル名に*.REP の拡張子が付く。

Report Extractor Essbase のコンポーネント。レポートスクリプトを実行したときに Essbase データベースからレポートデータを取得する。

Report Viewer Essbase のコンポーネント。レポートスクリプトの実行後にレポート全体を表示する。保存したレポートにはファイル名に*.RPT の拡張子が付く。

Section 179 の値 (Section 179 value) Internal Revenue Service (米国国税庁) で指定されている特定の資産に適用される控除。これにより、不動産、信託、および特定の非法人の賃貸人を除く納税者は、税年度中に取得した適格資産の特定原価額に対し現行控除を請求できる。

Set 計算スクリプト内で他のコマンドの前に付くコマンド語。

Spreadsheet アドイン (Spreadsheet add-in) 通常使用しているスプレッドシートで作業できる Essbase ソフトウェア。Essbase Spreadsheet アドインはスプレッドシートソフトウェアのアドインモジュールである。

Storage Manager Essbase サーバのレイヤの 1 つ。Essbase データを物理ディスク記憶領域にマッピングする。Storage Manager は、保護、インデックス、データ、配賦、トランザクションなどの管理機能を制御する。

Sum of years digits (SYD) 減価償却 (Sum of years digits (SYD) depreciation) 減価償却可能な資産原価の一部分が毎年償却される加速償却の形態で、償却される割合を使用して減価償却価額が計算される。割合の分子は当年に相当する番号を表し (降順に年度に番号付けする)、割合の分母は資産の耐用年数の年度の番号の合計を表す。

UNC 「ユニバーサル命名規則 (Universal naming convention)」を参照。

Units of production (UOP) 減価償却 (Units of production (UOP) depreciation) 資産の耐用年数ではなく、資産によって生産される予測単位数に基づいて期間の減価償却費を決定する方法。減価償却可能額 (原価から残存価額を減算したもの) に、期間中に生産された資産の総算出額の比率を乗算して算出する。

アウトライン (Outline) Essbase 内のデータベースのすべての要素を定義する構造。ディメンションとメンバ、高密度および低密度ディメンションのタグと属性、計算、共有メンバ、データベースの基本的な集計構造の変更などを定義する。

アウトライン同期 (Outline synchronization) アウトラインの値を、別のアウトラインの対応する値と一致させるプロセス。

アウトライン変更ログ (Outline change log) Essbase データベースアウトラインに行われた変更の記録。

アクセス権限 (Access rights) ユーザがタスクを実行したり、特定のアプリケーション要素にアクセスしたりできるかどうかを決定するオプション。アクセス権限 (Access rights) - ユーザがアプリケーションのタスクを実行できるかどうか、アプリケーション要素にアクセスできるかどうかを決定する設定。

アクティビティログ (Activity log) アクティビティをすべて表示するログ。すべての送受信イベントの状態が表示される。

新しいパスワード (New password) ユーザ ID に割り当てられた新しいパスワード。

アドインファイル (Add-in file) 大きいソフトウェアプログラム内で読み込んで、そのプログラムの機能や性能を拡張する小さいファイル。例えば、Hyperion Analyst は Microsoft Excel 内で読み込むアドインファイルである。

アプリケーション (Application) 財務レポートの要件を満たすために使われる、組織、勘定科目、データ種別、その他の要素の集まり。例えば、月次レポートの要件を満たすアプリケーションや、予算レポートの要件を満たすアプリケーションを設定できる。

アプリケーション (Application) 組織、勘定科目、データ種別、その他のシステムディメンションのセット。

アプリケーション (Application) 組織、勘定科目、データ種別、およびその他のシステム要素のセット。

アプリケーション基本通貨 (Application currency) 本社のデフォルトのレポート通貨。システムはすべての通貨をアプリケーション基本通貨と関連させて換算する。定義する各アプリケーションに対してアプリケーション基本通貨を選択し、通貨換算のデフォルトを設定する必要がある。「通貨 (Currency)」も参照。

アプリケーションサーバ (Application server) アプリケーションが起動すると実行されるメインのサーバプロセス (ESSSVR)。

アプリケーション設計者 (Application designer) Essbase のアプリケーションとデータベースを設計、作成、管理する担当者。

アプリケーションプログラミングインターフェイス (API) オペレーティングシステムとアプリケーション間のインターフェイス。このインターフェイスによって、アプリケーションがオペレーティングシステムと通信し、オペレーティングシステムのサービスをアプリケーションに提供する。

アプリケーション要素 (Application element) 勘定科目、データ種別、エンティティ、仕訳、ロジックなどのアプリケーションデータを格納するために作成する項目。

アプリケーション要素レポート (Application Element Report) 指定したセキュリティクラスをどのアプリケーション要素が使用するかを示したセキュリティレポート。

アプリケーション読み込みの最適化 (Application load optimization) アプリケーションに存在する勘定科目、エンティティ、データ種別、レポートの数を指定できるようにする機能。この情報により、システムの読み込みファイルはアプリケーション要素を ASCII テキストファイルから読み込むときのパフォーマンスを最適化できる。

アプリケーションログファイル (Application log file) アプリケーションにユーザが行う操作の記録。

移行 (Migration) Essbase ソフトウェアを新しいリリースに更新するプロセス。

以降のメンバの取得 (Subsequent retrievals) 最初の取得が完了してから同じメンバセットをさらに取得すること。

一覧 (List) 「勘定科目一覧 (Account list)」、「エンティティ一覧 (Entity list)」を参照。

一括計算 (Batch calculator) Essbase 一括計算を使用したデータベースの連結および計算。

一括読み込み (Batch load) ESSCMD スクリプトとルールファイルを使用して一度にデータベースにデータを読み込む。

インタラクティブモード (Interactive mode) ESSCMD を使用する方法の 1 つ。コマンド行でコマンドを入力する。Essbase では必要に応じて入力を求めるメッセージが表示される。

インテリジェント計算 (Intelligent calculation) 前回の計算以降、どのデータブロックが更新されたかを追跡する計算方式。

インデックス (Index) Essbase データを低密度ディメンションに基づいて取得する方法。インデックスファイルを指す場合もある。

インデックス (Index) 基準となる期間からの比率変更を保存している表。保存された値は、固定資産モジュール (FAM) の再評価プロセスを使用して原価調整などの関連トランザクションを生成する場合に使用される。

インデックスエントリ (Index entry) 低密度ディメンションの交点のポインタ。各インデックスエントリはディスク上のブロックを示し、オフセットを使用してブロック内の特定のセルを見つける。

インデックスキャッシュ (Index cache) インデックスページを格納するメモリのバッファ。

インデックスファイル (Index file) Essbase でデータ検索情報の保存に使用されるファイル。ディスクに常駐し、インデックスページを格納する。

インデックスページ (Index page) インデックスファイルの区画。データブロックを示すエントリを格納する。

売上請求書 (Sales invoice) SLI で入力されるドキュメントトランザクション。資産の勘定科目に影響する場合は、固定資産モジュール (FAM) の SLI から処分トランザクションが生成され、総勘定元帳の勘定科目の定義に従ってこのイベントが処理される。

影響ありステータス (IMPACTED status) エンティティに集計されたデータが変化したことを示す連結ステータス。

エイリアス (Alias) ディメンションまたはメンバの別名。

エイリアステーブル (Alias table) データベースのエイリアス名を格納しているテーブル。

エクスポート (Export) コピーされてテキストファイルに配置されるデータ。

エラー (Error) 転送や処理に失敗したり、パッケージが送信されない場合に発生する。

エラーログ (Error log) Hyperion Enterprise に関連したすべてのエラーメッセージとアクティビティを記録したログ。

演算子 (Operator) 「単項演算子 (Unary operator)」を参照。

エンティティ (Entities) 組織内のレポート単位。エンティティは、子会社、部門、工場、製品など、任意のレポート単位を表すことができる。

エンティティ (Entity) 部門、子会社、工場、地域、製品、またはその他の財務レポート単位を表すことができる組織単位。

エンティティ一覧 (Entity list) 同時に使用するエンティティをグループにしたもの。

エンティティ一覧 (Entity list) レポートやデータ入力表の定義で使用したり、データの抽出などのデータベース機能のために、ユーザがグループ分けしたアプリケーションのエンティティのサブセット。

エンティティ属性 (Entity attribute) エンティティに条件を付ける項目の1つ。通貨、チャートロジック、セキュリティクラス、下位構造、コード、単位などがある。

エンティティの親子関係 (Entity ownership) 組織内の子エンティティと親エンティティとの間の関係を定義する情報。エンティティの親子関係は、連結比率、出資比率、支配比率、連結ロジック、換算ロジックから成る。

エンティティ変換表 (Entity conversion table) 「変換表 (Conversion table)」を参照。

エージェント (Agent) アプリケーションやデータベースの開始と終了、ユーザの接続管理、ユーザアクセスのセキュリティ処理などを行うサーバのプロセス。ESSBASE.EXE と呼ばれる。

エージェントログファイル (Agent log file) エージェントが行う操作の記録。

オフピーク時 (Off-peak hours) 夜間など、データベースがあまり使用されない時間帯。

オブジェクト (Object) アプリケーションまたはデータベースに関連するファイル。オブジェクトには、アウトライン、ルールファイル、計算スクリプト、レポートスクリプト、データソースなどがある。これらはサーバのアプリケーションまたはデータベースのサブディレクトリ内か、クライアントコンピュータに保存される。

オペレータキー (Operator key) データ入力をすばやく容易にする機能を実行するキーボードキー。

オペレーティングシステム (Operating systems) コンピュータを動作させるシステムソフトウェア。Windows、Windows NT、Unix などがある。

親 (Parent) 下位に連結分岐を持つメンバ。

親エンティティ (Parent entity) 組織の他のエンティティを所有するエンティティ。「エンティティ (Entity)」も参照。

親が未定義のエンティティ (Unowned entity) どの組織にも含まれていないエンティティ。例えば、「CORP」という組織からエンティティ「USWEST」を削除した場合、「USWEST」が他のどの組織にも所属していないと、親が未定義のエンティティになる。親が未定義のエンティティになると、そのエンティティに関連したすべてのデータはシステムで維持される。

親の仕訳帳 (Parent journal) 組織内のノードに転記される仕訳帳入力。

親の調整 (Parent adjustments) 組織内のノードに転記される仕訳帳入力。

オンラインヘルプ (Online help) 手順を説明するオンラインナビゲーションのヘルプシステム。印刷版のドキュメントもある。

下位構造 (Substructure) あるエンティティの下にサブエンティティの集まりを作成できるようにするエンティティ属性。下位構造は、最下位エンティティにのみ割り当てることができる。下位構造は、アプリケーションで以前に定義したすべての下位構造の一覧から選択する。

開始期間 (Start period) データ種別のデータの保存を開始する期間。通常、開始期間は会計年度の最初の期間ですが、会計年度内の任意の期間を使用できる。また、開始期間はデータ種別の期間単位によっても異なる。

開始年 (Start year) データ種別の最初の期間の年。2 年以上のデータを保存するデータ種別の場合、データが開始する年を入力する。開始年は 4 桁で入力する必要がある。

会社間子表 (Intercompany dependent table) 直接的な子および間接的な子も含め、組織内の任意の親の会社間エンティティをすべて表示する表。この表には、連結比率、出資比率、支配比率、連結ロジックなど、各会社間の子の連結に関する情報が表示される。

会社間サブ勘定科目表 (Intercompany subaccount table) 会社間の残高詳細を保存するために使用する表。会社間サブ勘定科目表には、アプリケーションの会社間エンティティと同じ ID を持つ勘定科目が含まれる。

会社間消去 (Intercompany elimination) 勘定科目を照合して、組織の連結済み合計から会社間トランザクションをすべて消去する処理。

会社間照合 (Intercompany matching) アプリケーション内の会社間勘定科目のペアについてその残高を比較する処理会社間照合グループ

連結中に照合および消去される勘定科目を指定するために定義する会社間勘定科目のペア。

会社間照合レポート (Intercompany Matching report) 会社間勘定科目のペアの残高を比較し、ペアの残高が一致しているかしていないかを示すレポート。通常、会社間売掛金は会社間買掛金に対して照合、つまり比較される。システムはこれらの照合勘定科目を使って、組織の連結済み合計から会社間トランザクションをすべて消去する。「調整勘定 (Plug account)」も参照。

回収期間 (Recovery period) 資産が減価償却する全期間。現在減価償却している期間は当期回収期間である。

階層 (Hierarchy) 一連のマルチディメンション関係。ツリー構成のアウトラインで作成される場合が多い。階層の例として、親、子、世代 2、世代 3 などがある。

開発者用ツールキット (Developer's toolkit) Hyperion Enterprise と相互作用するプログラムを開発して、既存の Hyperion Enterprise アプリケーションをカスタマイズするためのツール。この製品により、Hyperion Enterprise の API への高レベルのアクセスが可能になる。Hyperion Enterprise API を使用して、アプリケーションの要素、勘定科目残高、所有者データ、仕訳帳詳細などにアクセスできる。

格納なし (Non-store) アクティブなデータベースに格納されないデータ値。

カスタム関数 (Custom function) 独自の計算式関数を作成できるようにするユーザ定義のマクロ。カスタム関数は、1 つまたは複数のロジックで何回も繰り返し使われる論理式がある場合に便利。

加速原価回収法 (ACRS : Accelerated cost recovery set)

1981 年に米国で制定された制度で、所得をもたらす有形固定資産の使用に許可される所得税の控除について取り決めている。ACRS は、1981 ~ 1986 年に取得された長期有形固定資産に適用され、資産クラスと回収期間の決定に資産の取得原価を使用する。

加速償却法 (Accelerated method) 資産の取得原価が耐用年数の終了時より開始時に速く償却される減価償却法。

換算の詳細 (Translation detail) エンティティの換算結果を保存する連結の詳細のコンポーネント。

換算ロジック (Translation method) データの連結時に通貨換算を実行するロジック。換算ロジックには、連結時にエンティティの通貨を換算する方法を決定する計算式の集まりが含まれる。「ロジック (Method)」も参照。

勘定科目 (Account) アプリケーションの各エンティティやデータ種別の財務データを保存する、勘定科目表の要素。

勘定科目 (Accounts) エンティティ、データ種別、および期間におけるデータの場所。

勘定科目一覧 (Account list) [データ入力]、[データベース]、および [レポート] の各ウィンドウで使用するためにユーザが作成する勘定科目のグループ分け。

勘定科目グループ (Account group) 勘定科目表内の類似した勘定科目のグループ。勘定科目グループを定義すると、勘定科目を定義してグループに追加できる。デフォルト属性を定義して勘定科目グループに割り当てることもできる。

勘定科目属性 (Account attribute) システムで勘定科目の値を処理する方法を決定する情報。勘定科目属性は勘定科目に固有で、勘定科目を勘定科目表の他の場所に移動するときに勘定科目に適用される。

勘定科目ディメンション (Accounts dimension) 会計インテリジェンスを使用可能にするディメンション。1つのディメンションにのみ勘定科目のタグを付けることができる。勘定科目ディメンションが必ず必要わけではない。

勘定科目番号 (Account numbers) BaanERP において通常の勘定科目 (12 文字) と最大 5 つのディメンション (1つのディメンションにつき 6 文字) で構成される番号。ディメンションはユーザが定義する。

勘定科目表 (Chart of accounts) データの読み込みや入力、仕訳帳の調整、データの連結、レポートの作成や実行に使われる勘定科目をすべて含むマスターリスト。Hyperion Enterprise では、各アプリケーションにある全組織の全勘定科目を 1 つの勘定科目表で定義する。勘定科目表には、アプリケーション内の全勘定科目の ID、説明、属性が含まれる。

勘定科目変換表 (Account conversion table) 外部勘定科目と、それに対応する Hyperion Enterprise の勘定科目への論理マッピングの一覧。勘定科目変換表では、外部ソースと Hyperion Enterprise との間に、一対一、一対複数、または複数対一の関係を確立できる。

勘定科目を無効にする (Account disabled) 管理者がユーザ ID を無効にできるオプション。

関数 (Function) 計算式内で使用する算術コード。Hyperion Solutions 製品のアプリケーションからデータを取得して計算する。「計算式 (Formula)」も参照。

関数 (Function) 値または値の範囲を返したり、計算式の実行を制御するあらかじめ定義されたルーチン。Essbase では、算術、インデックス、財務、マクロ、ブールなどのカテゴリで多数の関数を使用できる。

関数 (Function) 特定の勘定科目の値の検索や特定の計算の実行をシステムに指示するキーワード。例えば、平均関数は、指定された勘定科目の当期の値と前期の値の平均を求めるようにシステムに指示する。

完全データブロック (Full data block) データブロックの各データセルで発生する計算。

感嘆符 (Bang character) 文字 (!)。一連のレポートコマンドを終了してデータベースから情報を要求する。レポートスクリプトは感嘆符で終了する必要がある。1つのスクリプト内に複数の感嘆符を使用できる。

管理 (Maintenance) 資産の管理に関連付けられた経費を保存する金額フィールド。このフィールドは、勘定科目の定義に従って買掛金 (ACP) または総勘定元帳 (GLD) のトランザクションから更新される。

管理者 (Administrator) ユーザアカウントやセキュリティを設定して、Essbase システムのインストールと管理を行う担当者。「データベース管理者 (Database administrator)」と「システム管理者 (System administrator)」も参照。

期間 (Period) 連動時系列メンバの定義に使用されるキーワード。特定の期間を示す (半年など)。

期間 (Period) データ種別内の時間の間隔。

期間 (Period) Hyperion Enterprise XA のデータの範囲を指定する開始期間と終了期間。

期間 (Periods) データ種別内の時間セグメント。

期間およびデータ種別ごとの親子関係 (Ownership by period and category) 「連動組織 (Dynamic organizations)」を参照。

期間終了 (Period end) 選択した会社の会計期間を終了して増分し、指定した履歴保持ルールに基づいて履歴を消去するイベント。年度末に期間終了を実行すると、履歴の年度末データが消去され、減価償却累計がゼロにリセットされる。

期間単位 (Frequency) 日次、週次、月次など、データ種別がデータを追跡する時間の間隔。

期間累計レポート (Period-to-date reporting) データを期間でまとめてレポートするプロセス (四半期累計 6 月など)。

企業予算 (Corporate budget) 企業オフィスによって調整され管理される予算情報。

季節 (Season) 連動時系列メンバの定義に使用されるキーワード。夏、秋、冬、春などの季節を示す。

期別値ロジック (PVA : Periodic value method) 期別の換算レート値をある期間を通して適用し、換算結果を算出するための通貨換算の処理。

期別替 (Rollovers) 期別替元データ種別から期別替先データ種別に情報を移動し、期別替元データ種別のデータをクリアするための処理。期別替が実行されると、送り側データ種別と送り先データ種別の開始日が増分される。

基本要素 (Basic element) Hyperion Enterprise アプリケーションの構造を構築するために定義する部分。アプリケーションの基本要素には、データ種別、期別替、コード、通貨、エンティティ、勘定科目、勘定科目表、換算表、勘定科目一覧、エンティティ一覧などがある。

キューブ (Cube) データのマルチディメンション配列。データベースと同義。

兄弟 (Sibling) 別の子メンバと同じ分岐レベルにある子メンバ。例えば、Sample Basic データベースでは East と West は兄弟である。

共有メンバ (Shared member) 同じ名前の別のメンバと記憶領域を共有するメンバ。このメンバには「共有」という属性がある。共有メンバは、アウトラインの複数の場所に含まれるメンバに対し Essbase で不要な計算が実行されるのを防ぐ。

共有領域 (Shared region) パーティション。

記録 (History) 1997、1998、1999、2000 など、時間ディメンションの時間の値をすべて含む連動時系列メンバを定義するために使用されるキーワード。

記録の消去 (History purge) 会社の資産の履歴データを消去する方法。

金融会社 (Financial company) 独自の原価と利益に責任を持つ組織。会計単位である必要はなく組織単位でもよい。

行の非表示 (Suppress rows) 値のない行、またはゼロ値および下線を含んでいる行をスプレッドシートレポートから除外するオプション。

行見出し (Row heading) レポートページにそれぞれの行名でメンバを一覧表示するレポート見出し。行はディメンション名の下にインデントされる。

クエリ (Query) ワークシートに並ぶディメンション ID。Hyperion Solutions 製品のアプリケーションからデータを取得するために使用される。

クライアント (Client) LAN でサーバに接続しているワークステーション。

クライアントログファイル (Client log file) クライアントで生成されるメッセージ、操作、エラーなどをすべて記録する ASCII ファイル。

繰延税金 (Deferred tax) 将来支払うべき所得税。既に取得しているが、まだ税金申告で認められていない収入から予測する。実際の責任や当面の義務ではなく、税金申告や財務報告で特定の収入および支出項目が認識される際の時間的差異を補正するためのものである。

クリーンタグ (Clean tag) ブロックに現在計算中であることを示すマーカを付けるインデックスタグ。

クリーンブロック (Clean blocks) 前回の計算以降、変更されていないデータセルのあるデータブロック。

計算式 (Formula) ロジック内の勘定科目、更新ルール、カスタム関数に割り当てられる関数、演算子、条件式を含む論理式。

計算式 (Formula) Hyperion Solutions 製品のアプリケーションからデータを取得して計算するために使用する関数やパラメータ。

計算式関数 (Formula function) 「関数 (Function)」を参照。

計算式の保持 (Preserve formulas) 新しいデータを取得する間、ユーザがスプレッドシート内で作成した計算式を保持するプロセス。

計算式保持 (Formula preservation) 「計算式の保持 (Preserve formulas)」を参照。

計算なし (Noncalculated) 一括計算中に計算されないデータブロック。

経常テンプレート (Recurring template) すべての期間に同一の調整を加えることができる機能。各期間ごとに通常仕訳帳を作成して同一の調整を転記する代わりに、その調整を含む経常テンプレートを 1 つ作成できる。期間を開くと、システムは経常テンプレートを使って通常仕訳帳を自動的に作成する。この仕訳帳は、ただちに転記することも、編集してから転記することもできる。

結合 (Merge) データ読み込みファイルで指定された勘定科目の既存の値のみをクリアし、それをファイルにある値で置換するデータ読み込みオプション。[置換] オプションとは異なり、[結合] オプションがクリアするのは読み込みファイルで指定された勘定科目の値のみである。「累計 (Accumulate)」、「置換 (Replace)」も参照。

検証 (Validate) パーティションをチェックして、正しく定義するための条件がすべて満たされているかどうかを確認するプロセス。

検証 (Validation) ルールファイルをアウトラインと比較して有効性を確認するプロセス。

減価償却費 (Depreciation expense) 収入を確定する際に、耐用年数にわたる資産の原価長期配賦に基づいて、収益から控除される金額。

減価償却法 (Depreciation method) 資産に適用する減価償却法によって、資産に生じる減価償却の金額を計算する式が決定する。減価償却法では大文字と小文字が区別される。

減価償却累計額 (Accumulated depreciation) 資産の取得後に認識され記録された減価償却の合計。資産の取得原価から減価償却累計額を減算して純帳簿価額を算出する。

子 (Child) 「子エンティティ (Dependent entity)」を参照。

子 (Child) データベースアウトラインで上位に親を持つメンバ。子は、データベースアウトラインの同じレベルにピア (兄弟) を持つ場合もある。

更新 (Refresh) アプリケーションを新しい情報で更新する機能。更新機能により、画面も再描画される。

更新されたセルを設定 (Put updated cells) PUTUPDATEDCELLS。複製ソースとして使用される選択したデータベース内の変更されたセルを更新する ESSCMD。

更新変数 (Update variable) UPDATEVARIABLE。現在設定されている変数を更新する ESSCMD。

更新ルール (Update rule) 値を他のエンティティの勘定科目に配賦するときに使用される計算式のラベルを定義する関数。更新ルールは連結ロジックでのみ使用される。

高度解釈モード (Advanced interpretation mode) Essbase Spreadsheet アドインのオプション。ズーム操作、[Retrieval Wizard (取得ウィザード)] の操作、またはシートへのデータ入力によって、スプレッドシートのレイアウトを定義できる。自由形式のレポートを高度解釈モードで構成すると、Essbase でメンバ名が解釈され、メンバ名ラベルの位置に基づいてデフォルトのビューが作成される。

高密度ディメンション (Dense dimension) ディメンションの可能な組み合わせのうち、1 つ以上のデータポイントを占める可能性の高いディメンション。

子エンティティ (Dependent entity) 組織内の他のエンティティに所有されるエンティティ。

固定一覧 (Fixed list) 個別に選択された勘定科目やエンティティを含む静的な一覧。この一覧は、勘定科目やエンティティの追加または削除を手動で行わない限り変化しない。

子のレート勘定科目 (Child rate accounts) グローバル勘定グループの勘定科目ではないレート勘定科目を使って通貨換算できるようにするオプション。このオプションを選択すると、システムは子の非グローバル勘定科目のレートを使って連結を実行する。

コマンド (Command) レポートスクリプトや ESSCMD ウィンドウで使用される構文。

コミット行 (Commit row) 確定トランザクションのたびにディスクにコミットされるデータ行の数。

コミットされたアクセス (Committed access) Storage Manager 分離レベルの設定。Essbase のトランザクション処理方法に影響する。コミットされたアクセスでは、同時トランザクションが書き込み保護を長期間維持し、予測可能な結果を生じる。

コミットされた分離レベル (Committed isolation level) トランザクションがディスクにコミットされる時期を決定するデータベース設定。

コミットされていない分離レベル (Uncommitted isolation level) Storage Manager 分離レベルの設定。Essbase のトランザクション処理方法に影響する。コミットされていない分離レベルでは、同時トランザクションは、他の同時トランザクションが行われる際に短時間書き込みが保護され、予測不可能な結果を生じる。

コミットブロック (Commit blocks) 確定トランザクションのたびにディスクにコミットされるデータブロックの数。

コメント（計算式内）（Comment (in formulas)） 作成する計算式に関する情報をシステム管理者やユーザに提供する英数字の文字列。

コード（Code） 勘定科目、エンティティ、ロジック、仕訳帳などの要素をアプリケーションでグループ分けするために、これらの要素に割り当てるラベル。コードは、レポート用ツールとして使用できるだけでなく、エンティティや勘定科目などのアプリケーション要素をエンティティ一覧や勘定科目一覧でフィルタするためにも使用できる。

最下位エンティティ（Base entity） 他のエンティティを所有しない、組織構造内の最下位にあるエンティティ。

再構築（Restructure） データベースインデックスやデータファイルを再生成または再構築する操作。

最小データベースアクセス（Minimum database access） アプリケーションのすべてのデータベースに対するデフォルトのセキュリティを制御するオプショングループ。このグループはアクセス設定（読み取り、なしなど）をアプリケーション全体に適用する。アプリケーション内でデータベースに接続しているすべてのユーザは最小限のアクセスレベルを持っているが、個々のユーザはより高いレベルの権限を持つ場合がある。

最新（Latest） Essbase Spreadsheet アドインまたは Report Writer 内で使用されるキーワード。最新の期間として定義されているメンバに基づいてデータ値を抽出する。

最上位エンティティ（Top entity） 親を持たないエンティティ。各組織には、最上位エンティティと呼ばれる、親を持たない親エンティティが1つある。エンティティはすべて、最上位エンティティに集計される。

最上位仕訳帳（Top-level journal） 「親の仕訳帳（Parent journal）」を参照。

再評価（Revaluation） 固定資産の現行価値を市場相場に更新する。BaanERP では、固定資産をインデックスに基づいて再評価するか、手動で金額を入力する。

サブエンティティ（Subentity） 最下位エンティティに添付されているエンティティのテンプレート。詳細の定義と保存に使用される。

サブ勘定科目（Subaccount） 詳細な情報を含んでいる勘定科目。主要勘定科目に添付される。サブ勘定科目の属性によって、サブ勘定科目の値の処理方法が決まる。

サブ勘定科目の共用記号（Shared subaccount signatures） アプリケーションで同じラベルを持つすべてのサブ勘定科目に同じ内部識別子を使用できるオプション。このオプションを使用しない場合、既に存在するサブ勘定科目ラベルが新しいサブ勘定科目のラベルと一致するかどうかに関わらず、アプリケーション内に作成する各サブ勘定科目は一意の内部識別子を持つ。

サブ勘定科目表（Subaccount table） アプリケーション内の主要勘定科目に付属できる詳細勘定科目の表。

サブセット（Subset） データの交点。サブセットにより、特定の条件を満たすメンバをさらに詳細に定義する。

サブデータ種別（Subcategory） データ種別内の資産がさらに分類されたもの。各データ種別に、1つまたは複数のサブデータ種別を入力できる。

算術演算子（Mathematical operators） 「単項演算子（Unary operators）」を参照。

算術データ読み込み（Arithmetic data load） 各値に10を追加するなど、データベースの値に演算を実行するデータ読み込み。

サードパーティツール（Third-party tools） Essbase のフロントエンドアプリケーション。

サーバ（Server） ディメンションメンバの交差に基づいてデータ値の検索とアクセスを行う大容量、マルチユーザのデータベースサーバ。エージェントとアプリケーションを格納している。

サーバアプリケーション（Server application） 「サーバ（Server）」を参照。

サーバ障害（Server interruption） クラッシュ、停電、Ctrl+C キー操作、エラーなどでサーバが停止すること。

財務計算関数（Financial functions） 2つの列または行の値の比率など、財務データの取得と計算を行う関数。

残存価額（Salvage value） 固定資産が耐用期間の終了時に処分されるときに回収される見積金額。

残高勘定科目（Balance account） ある特定の時点における未指定値を保存する勘定科目種別。

市価保険金額 (Sum insured for fair market value) 資産に掛けられている市価保険金額。

資産 (Asset) 不動産、工場、装置など、組織が実際に使用しているもの。

資産買い取り (Asset acquisition) 資産を認知するプロセス。資産は、請求、支払い、受け取りが完了した時点で買い取られる。買い取られた資産は減価償却できる。買い取られた資産は既に資産計上されている。

資産勘定科目 (Asset account) 会社の資産を表した値を保存する勘定科目種別。

資産グループ (Asset group) 資産データ種別より広範囲のレベルのグループ。組織の資産を分類してレポートや照会に使用する。

資産計上 (Asset capitalization) 使用中であり減価償却に該当する資産を特定する方法。資産を計上するには、まず買い取る必要がある。

資産償却 (Asset depreciation) 使用中の資産の経費や原価を長期にわたって回収する制度。減価償却を使用すると、減価償却法として定義される数式を使用して、経費と収益を照合するか、または課税額を減額できる。資産は、資産または資産パッケージレベルで減価償却できる。資産償却中に、BaanERP では資産分布で示した勘定科目に従って指定した資産または資産パッケージを減価償却する。資産償却はパッケージまたは資産ごとに実行される。大量の減価償却は資産グループまたは資産パッケージのパッケージまたは会社で生じるが、単一の減価償却は一度に1つの資産または資産パッケージで生じる。

資産償却限度 (ADR : Asset depreciation range) 米国 IRS で制定された減価償却規定。1971 ~ 1980 年に取得された資産に適用される。ADR は、1971 年より前に取得された資産、ACRS または MACRS に従って償却可能な 1980 年より後に取得された資産、または ADR 選挙が行われなかった年度に取得された資産には適用されない。ADR は、資産に適用される相互排他的な規定の1つである。主な特徴として、米国 IRS が資産の寿命に上限と加減を設定したことが挙げられる。選挙年度に最初に使用された減価償却期間は、資産の残りの使用期間中、米国 IRS によっても納税者によっても変更できない。

資産処分 (Asset disposal) 資産に関連するパッケージに保管されている値を削除するトランザクション。処分された資産は、指定した保存期間まで固定資産モジュール (FAM : Fixed Assets module) に保持されるが、減価償却はしない。資産に対して記録できる資産処分には、売却、贈与などいくつかの種類がある。レポートへの影響は処分の種類によって異なる。

資産譲渡 (Asset transfer) 資産の所有者、場所、責任などが変更された結果、関連するパッケージに保存されている値の一部または全部に適用されるトランザクション。

資産タイプ (Property type) 米国税金の減価償却の法的要件に関する固定資産の分類。

資産調整 (Asset adjustment) 資産が資産計上され、直接変更できない資産価値を変更する処理。調整は通常、事務上の誤りを訂正する場合や、資産の寿命、減価償却法、原価などを再分類する場合に使用される。資産は、資産計上から処分または削除されない限り、ライフサイクルのどの時点でも調整できる。

資産トランザクション (Asset transaction) 資産のイベント、関連するパッケージ、分布などを記録するために生成されるレコード。調整、計上、減価償却、処分、および譲渡される資産のトランザクションが保存される。

資産の寿命 (Asset life) 資産の予想耐用年数。資産の減価償却に要する期間を決定する。

資産番号と資産拡張 (Asset number and asset extension) 資産番号と資産拡張により、選択した会社の資産の一意の識別子を作成する。

資産パッケージ (Asset book) 資産に関連付けられているパッケージ。資産データを記録するため、少なくとも1つのパッケージがデフォルトで設定されている必要がある。関係をデフォルトで設定する類似した資産パッケージでは、共通のパッケージセットを使用できる。パッケージを使用して、組織の資産の減価償却やその他のトランザクションデータを記録する。作成するパッケージごとに、パッケージに関連付けられている資産が減価償却するかどうかを指定する。資産を複数のパッケージに関連付けて、パッケージごとに異なる減価償却を指定したり、減価償却しないように指定することもできる。

資産分布 (Asset distribution) 資産分布は、特定の会社や経費勘定の減価償却費と、それらに関連するディメンションを示す。分布には、関連する場所、統合スキームまたはトランザクションデータ入力表における勘定科目、および分布線の数量または比率原価も格納される。

資産分布 (Asset distribution) 資産分布は分布線で構成される。特定の会社や経費勘定の減価償却費と、それらに関連するディメンションを示す。分布には、関連する場所、統合スキームまたはトランザクションデータ入力表における勘定科目、および分布線の数量または比率原価も格納される。

システム管理者 (System administrator) ハードウェア、ソフトウェア、ディスク領域の分配、実行中の Essbase ソフトウェアの設定などを管理する担当者。

子孫 (Descendant) 親の下位にあるメンバ。

子孫に展開 (Expand to descendants) Essbase Application Manager のオプション。ディメンションのすべてのメンバを展開して表示する。

支配比率 (Percent control) エンティティが組織内で支配される程度。支配比率を使って、連動組織での連結ロジックの割り当てを決定できる。

四半期 (Quarter) 四半期を示す連動時系列メンバを定義するために使用されるキーワード。

シフト係数 (Shift factor) 通常スケジュールされている勤務時間外に資産が使用される割合。シフト係数の値を 1 より小さく設定することはできない。

週 (Week) 週を示す連動時系列メンバを定義するために使用されるキーワード。

収益勘定科目 (Income account) 値が正の場合に純資産を増加させる期別値と累計値を保存する勘定科目種別。

集計 (Roll-up) 「連結 (Consolidate)」を参照。

集計 (Roll-up) 「組織 (Organization)」を参照。

修正加速原価回収法 (Modified accelerated cost recovery system) 加速原価回収法 (ACRS) ガイドラインの改訂版。減価償却可能な資産を、選択した減価償却方法に応じた回収期間に分類する。

集約値 (Aggregated values) 東日本の総売上高など、メンバの連結を表すデータ値。「連結 (Consolidation)」も参照。

取得ウィザード (Retrieval Wizard) Essbase Spreadsheet アドインのウィザードツール。レポートを容易に設計できる。

取得ソートバッファ (Retrieval sort buffer) Essbase Spreadsheet アドインまたは Report Writer によって使用されるバッファ。データをソートする。

取得バッファ (Retrieval buffer) Essbase Spreadsheet アドインまたは Report Writer によって使用されるバッファ。取得中の各データ抽出の大きさを決定する。大きいバッファであれば、一度にデータセット全体を抽出できる。

主要勘定科目 (Major account) 入力値や、ロジックを使用して算出された値を保存できる勘定科目。

照会 (Inquiry) 固定資産モジュール (FAM) で情報を表示する主要な方式。

昇格 (Promotion) メンバをアウトラインの 1 レベル上に移動するプロセス。

償却可能原価 (Depreciable cost) 資産の原価から残存価額と減価償却累計額を減算した値。

償却頻度 (Depreciation frequency) 減価償却が記録される頻度を決定する方法。特定の期間が保留になるかどうかも決定する。

商業用パッケージ (Commercial book) 総勘定元帳データなど、税金報告規定に制約されないデータを記録するために米国以外の国で使用されるパッケージ。

詳細記憶モデル (DSM : Detailed storage model) 「連結の詳細 (Consolidation detail)」を参照。

詳細メンバ (Detail member) 「リーフメンバ (Leaf member)」を参照。

詳細レベルデータ (Detail-level data) レベルゼロ (0) のデータなど、データベースのメンバとディメンションの詳しい情報。

所有率 (Shares) アプリケーションのエンティティ間の親子関係を示す単位または比率。

処理リソース (Processing resources) Essbase のタスクを処理できる利用可能なサーバ。

仕訳帳 (Journal) 1 つのデータ種別および期間の勘定科目の残高に対して加えられる借方／貸方の調整の集まり。仕訳帳は、勘定科目の値の変化を記録し、それらの変化の監査証跡を維持するために使われる。

仕訳帳入力 (Journal entry) トランザクションやイベントの詳細を会計システムに入力するための媒体。

仕訳帳の番号付け (Journal numbering) 仕訳帳入力に自動的に番号を付ける処理を有効にするオプション。アプリケーションの作成時に「仕訳帳に自動的に番号を付ける」オプションを選択すると、「データ種別」ウィンドウの「仕訳帳の番号付け」オプションを使って、現在のデータ種別で仕訳帳に番号を付ける方法を設定できる。このオプションを使用しない場合は、仕訳帳の ID のみがアプリケーション内の仕訳帳の識別子となる。

仕訳帳の保護 (Journal lock) この期間の現在の名前に転記された仕訳帳。いったん名前に仕訳帳を転記すると、別の仕訳帳を転記しなければ名前のデータを変更できない。

仕訳帳読み込みログ (Journal load log) 読み込まれた仕訳帳のステータスの表示に使用する。

信頼性 (Reliability) 週 7 日、1 日 24 時間、Essbase を使用できること。

時間ディメンション (Time dimension) データを収集して更新する頻度を定義するディメンションタイプ。1 つのディメンションにのみ時間のタグを付けることができる。時間ディメンションが必ず必要なのではない。

事業データ (Operational data)

時系列インテリジェンス (Time series intelligence) 時間ディメンションメンバを使用して、連動計算される期間累計レポートと分析を作成する機能。

時系列レポート (Time series reporting) 年、四半期、月、週など、日付のカレンダーに基づいてデータをレポートするプロセス。

事前イメージアクセス (Pre-image access) データが新しくコミットされるのを待たずに前のデータ値を表示する機能。

事前計算 (Precalculation) ユーザが取得する前にデータベースを計算するプロセス。

自動逆仕訳仕訳帳 (Auto-reversing journal) 次の期間で逆仕訳する調整を入力するために使われる機能。自動逆仕訳仕訳帳は、2 つの期間のデータに影響を与える。つまり、まず自動逆仕訳仕訳帳を転記して 1 つの期間の値を調整する。その次の期間を開くと、システムによってそれらの調整を逆仕訳する仕訳帳が自動的に作成され、転記される。

自動再計算 (Auto recalculate) 「データベース」ウィンドウに値を入力するたびにすべてのデータを再計算できるオプション。

ジャンプポイント (Jump point) あるデータベースのデータ値から別のデータベースの対応する場所までドリルアクロスするポイント。

柔軟なレポート作成機能 (Flexible reporting options) ユーザ定義の属性、パターン照合、AND/OR 制約ロジックなどに基づいてデータをレポートする機能。

純帳簿価額 (Net book value) 資産の関連パッケージに格納されている現行原価から減価償却累計額を減算して算出される資産の価値。減価償却を算出して更新するか、原価または減価償却累計額を調整すると、各資産に関連するパッケージの純帳簿価額が変わる。パッケージの種類が連邦税の場合は、この計算結果から Section 179 の値も減算される。

自由形式のデータ読み込み (Free-form data loading) データベースにデータを読み込む方法。自由形式のデータ読み込みは、データソースに十分な情報があり、データベースに直接読み込む場合に使用される。例えば、Essbase で使用されるデフォルトの順序でデータが配置されている場合、ディメンション、メンバまたはエイリアス名が必要な場合、Essbase で検出するメンバ名に従ってデータが読み取られる場合などに自由形式の読み込みを使用する。

自由形式モード (Free-form mode) Essbase Spreadsheet アドインのオプション。スプレッドシートにレポートスクリプトのコマンドを入力できる。

自由形式レポート (Free-form reporting) 高度解釈モードと自由形式モードで使用可能なオプション。スプレッドシートにメンバ名またはレポートスクリプトのコマンドを入力してレポートを作成できる。

上位ブロック (Upper-level block) 低密度メンバの少なくとも 1 つが親レベルのメンバである場合に、低密度メンバの組み合わせ用に作成されたデータブロック。

冗長データ (Redundant data) トランザクションの有効期間中、Essbase に保持されるデータの複製。

数式 (Expression) 条件式は数式の中で使われ、例えば、数字、アプリケーション要素の ID、算術記号、システムにどの値を使うかを指定する関数などがある。関数や他の条件式と区別するために、条件式はかっこ (()) で囲む。

スクリプトファイル (Script file) ESSCMD を含んでいるテキストファイル (*.SCR 拡張子)。Essbase によりファイルの終わりまで順番に実行される。オペレーティングシステムのコマンド行またはオペレーティングシステムのバッチファイル内からスクリプトファイルを実行できる。

スタイル (Styles) 「ビジュアルキュー (visual cues)」を参照。

ステータスバー (Status bar) 現在作業中のプログラムに関する情報を表示する。

スナップショット (Snapshot) ある時点でのデータのパーティションのコピー。

すべてのセルを設定 (Put all cells) PUTALLCELLS。複製ソースとして使用される選択したデータベース内のすべてのセルを更新する ESSCMD。

スワッピング (Swapping) 「ページング (Paging)」を参照。

スーパーバイザ (Supervisor) 定義済みのユーザタイプの 1 つ。サーバのすべてのアプリケーション、データベース、関連ファイル、およびセキュリティ機能のフルアクセス権を持つ。

ズーム (Zoom) 選択したディメンションに関連する詳細データや要約データを段階的に取得するプロセス。データベースのディメンションをズームインすると、そのディメンションのより詳細なデータが得られる。ズームアウトすると、連結レベルの高い、より全体的な視点が得られる。ズームインは「ドリルダウン」とも呼ばれる。

静的組織 (Static organizations) 連動組織とは対照的な組織。

セキュリティ (Security) Hyperion Enterprise のタスクやアプリケーション要素へのアクセスを制御する機能。セキュリティは、データを保護し、権限のないユーザによるデータの表示、アクセス、変更を防ぐために使われる。セキュリティは特定のタスクやアプリケーション要素に適用できる。

セキュリティクラス (Security class) アプリケーションの設計に基づいて、ジョブの機能、部門、基準ごとに分類された、アクセス可能な項目の集まり。ユーザグループは、アプリケーションのセキュリティクラスに対してさまざまなレベルのアクセス権を持つ。個々のユーザもセキュリティクラスに特定のアクセス権を持つことができ、この権限は、所属するユーザグループのアクセス権に優先する。

セグメント (Segment) ロケーションコンポーネントに使用される用語。

セル (Cell) マルチディメンションデータベースでディメンションの交点を表すデータ単位。また、スプレッドシートの行と列の交点も表す。

セルメモ (Cell note) Essbase データベースのセルに使用する 599 文字までのテキスト注釈。リンクされたレポートオブジェクトの 1 種である。

選択項目のみ削除 (Remove only) Essbase Spreadsheet アドインのコマンドの 1 つ。メンバのグループを指定して、特定のディメンションビューから削除できる。

選択した行のみを保持 (Keep only) Essbase Spreadsheet アドインコマンドの 1 つ。スプレッドシート内でハイライトされている行のみを保持する。

前期のデータ種別 (Prior category) 前期のデータに基づく初期値を使用してデータ種別を定義する場合に、値の計算に使用されるデータ種別。例えば、当年の実際のデータに Actual データ種別を定義し、開始残高を前年のデータの最後の期間の値に基づいて設定する。その場合、前年のデータを含んでいるデータ種別を Actual データ種別の前期のデータ種別として指定できる。

相互接続 (Interconnection) データベース間の接続（つまりドリルアクロス）。

組織 (Organization) 財務レポート構造を定義するために相互にリンクされたレポート上のエンティティの集まり。

祖先 (Ancestor) 下位にメンバを持つ分岐メンバ。例えば、Sample Basic データベースでは Qtr2 と Year は April の祖先である。

その他のデータ (Other data) グローバル、Hyperion DataExtend、事業、または調整以外のデータタイプが必要なときに設定できるデータタイプ。アプリケーション、組織、エンティティ一覧、エンティティ、勘定科目一覧、期間、読み込みモードの累積や置換、連結などをさらに詳しく限定できる。

ソース (Source) パーティション分割されたデータモデルでデータを生じた場所。

属性 (Attribute) メンバの特性。

属性レポート (Attribute reporting) データベースアウトラインのメンバの属性に基づいてレポートを定義するプロセス。

待機 (Wait) 新しくコミットされたデータの表示を待機する時間を決定する設定。

貸借一致仕訳帳 (Balanced journal) 借方の合計と貸方の合計が等しい仕訳帳。貸借一致仕訳帳を転記するには、まず仕訳帳内に借方と貸方を等しく入力する必要がある。

貸借不一致仕訳帳 (Unbalanced journal) 一欄式仕訳帳や貸借不一致仕訳帳の入力をユーザが転記できるようにする機能。

対称型マルチプロセッシング (SMP : Symmetric Multiprocessing) 複数のプロセッサが並行して機能できる強力なコンピューティングプロセス。32 ビットのマルチスレッド Essbase OLAP サーバアプリケーションで実現された。

対称レポート (Symmetric report) 同じメンバグループを繰り返すレポート。

タイトルバー (Title bar) 作業中のシステムを示す。

タイムスタンプ (Timestamp) いつデータがコピーまたは変更されたかを特定するためにブロックに配置する時間値。

タグ番号 (Tag number) 資産の識別番号。

多次元分析 (OLAP : Online analytical processing) 連結された企業データをリアルタイムで分析する必要があるユーザを対象にしたマルチディメンション、マルチユーザのクライアントサーバコンピュータ環境。OLAP システムには、ズーム、データピボット、複雑な計算、トレンド分析、モデリングなどの機能がある。

タスクレポート (Task report) 特定のセキュリティクラスにどのタスクを割り当てるかを決定するために使用するセキュリティレポート。

単位 (Scale) [データ入力] ウィンドウと [データベース] ウィンドウでデータを入力または表示するために使用する単位。

単項演算子 (Unary operators) データベースアウトラインで集計を行う方法を定義する算術インジケータ (+、-、*、/、%)。

ターゲット (Target) パーティション分割されたデータのアクセス元の場所。

代替最小税 (AMT : Alternative minimum tax) 納税者の代替最小税 (ATM) を算出するうえで減価償却が調整対象となる償却資産が分類される。これにより、減価償却に関して正規の税法規に従った税務上の利得が軽減される。税務減価償却標準額と AMT 減価償却額の差が AMT 調整額になる。法人および個人の高額納税者が少なくとも最低限の所得税を支払うように、AMT 規則が立案された。基本的には、租税の公平化を目的として、主に高額納税者が利用できる減税に対し再請求するための税回収手段。

代替変数 (Substitution variable) Essbase 固有の値を表すために使用する変数。変数と、対応する文字列の値を Essbase サーバで設定する。その後、計算スクリプト、レポートスクリプト、Essbase Spreadsheet アドイン、Essbase API などに代替変数を適用できる。

段階的な再構成 (Incremental restructuring) データベース全体を一度に再構成するのではなく、必要なときに部分的に再構成すること。

段階的な増加 (Incremental growth) ユーザ要求の増加に応じたアプリケーションとデータベースの増加。

ダーティブロック (Dirty block) 前回の計算以降、変更されているデータセルのあるデータブロック。

チェック勘定 (Account for lock) 「チェック勘定科目 (Locking account)」を参照。

チェック勘定科目 (Locking account) エンティティを保護できるようにするために、ゼロの値を含む必要がある勘定科目。エンティティを保護する前にその貸借を一致させるために使用する。

チェック済サブ勘定科目 (Validated subaccount) サブ勘定科目は、サブ勘定科目のデータが存在する場合にのみデータ入力表に表示される。

置換 (Replace) データ読み込みファイルで指定された期間のすべての勘定科目から既存の値をクリアし、データ読み込みファイルの値を読み込むデータ読み込みオプション。読み込みファイルで勘定科目が指定されていない場合は、指定された期間の勘定科目の値は読み込み中にクリアされる。「累計 (Accumulate)」、「結合 (Merge)」も参照。

中間データブロック (Intermediate data blocks) 上位の値を得るために計算されるブロック。

注釈 (Notations) 説明やコメントなどのテキスト入力項目。

抽出 (Extract) アプリケーションのデータを ASCII ファイルに転送できるようにするデータベースモジュールの機能。データを抽出する場合、データ書式を使って、出力先の ASCII ファイル内にデータをどのような書式で挿入するかを Hyperion Enterprise に指定する。

抽出コマンド (Extraction commands) Report Writer のコマンド。選択、方向、グループ化、順序付け、データベースからの生データ抽出などを処理する。これらのコマンドは小なり記号 (<) で始まる。

調整 (Adjustment) 「仕訳帳 (Journal)」を参照。

調整勘定 (Plug account) システムが会社間勘定科目のペア間の残高差を保存する勘定科目。

調整後当期利益 (ACE : Adjusted current earnings) 調整後当期利益 (ACE) 連邦税パッケージに属する資産の識別子。ACE は、1989 年より後に取得した資産について米国連邦税コードに必要な代替最小税 (AMT) 調整を算出するために行う所得修正である。

調整データ (Adjustment Data) 以前に送った事業データの調整を含む。以前に提出した元の事業データを保存して監査証拠を維持するために事業データから分離される。調整データは通常、本社から送られる。

通貨 (Currency) エンティティが使用する貨幣のタイプを表したエンティティ属性。以前にアプリケーションで定義されたすべての通貨の中から、各エンティティの通貨を 1 つ選択する。「アプリケーション基本通貨 (Application currency)」も参照。

通貨換算 (Currency conversion) Essbase データベースで通貨の値を別の国の通貨に変換する係数。換算には、元のデータが変更される場合と変更されない場合がある。

通貨パーティション (Currency partition) 使用通貨をアプリケーションの基本通貨として指定するディメンションの種類。Actual、Budget、Forecast などの通貨の種類も指定する。

通常仕訳帳 (Regular journal) 単一の期間に一度だけ調整を入力するために使用する機能。通常仕訳帳には、貸借一致、エンティティ単位で貸借一致、または貸借不一致のものがある。

月 (Month) 月を示す生成名の定義に使用されるキーワード。

ツールバー (Toolbar) Essbase の機能を表すアイコンのバー。アイコンは Essbase メニューへのショートカットとして使用される。

ツールバー (Toolbar) Hyperion Solutions 製品でよく使用されるメニュー項目にマウスを使用してすばやくアクセスできる。

定数 (Constant) 負または正の実数。

低密度 (Sparse) Market、Product など、含んでいるデータ値が少ないディメンション。

低密度ディメンション (Sparse dimension) 使用可能なデータ位置にデータを含んでいる比率の低いディメンション。例えば、会社の市場の一部で販売されていない製品。

テキスト関数 (Text functions) ディメンション ID や説明などの英数字テキストを取得する関数。

手続き (Procedural) 行ごとに構文を実行するプロセス。

手続き設定コマンド (Procedural set command) 1 つの計算スクリプトに複数の設定コマンドを適用できるコマンド。

展開 (Expansions) 展開によってワークシート内のディメンション ID から詳細データが表示される。ディメンション ID の横にあるプラス符号 (+) をクリックしてエンティティを展開する。

転送制御プロトコル/インターネットプロトコル (TCP/IP : Transmission Control Protocol/Internet Protocol) 世界中の多くの会社や機関で採用されている通信プロトコルの規格。TCP/IP は、オペレーティングシステムや内部のアーキテクチャが異なるコンピュータを接続する。TCP/IP ユーティリティを使用すると、ファイルの交換、電子メールの送信、LAN や WAN に接続している異種コンピュータへのデータの保存などを行うことができる。

テンプレート (Template) 特定のデータを同じ形式で定期的に取得するために設計された定義済みの画面。

ディスクパーティションサイズ (Disk partition size) ディスクボリュームの設定としてのディスクパーティションのサイズ。パーティション分割のパーティションではない。

ディメンション (Dimension) 情報を格納するもの。

ディメンション (Dimensions) Excel ワークシートで視点の情報を表すアイコン。Hyperion Analyst でディメンションアイコンをクリックし、別の ID と関数を選択すると、ワークシートでディメンションを割り当てることができる。

ディメンションアイコン (Excel) (dimension icon (Excel))

Microsoft Excel ワークシートでディメンション ID を象徴的に表すアイコン。ディメンションアイコンをクリックしてダイアログボックスにアクセスし、ワークシートの視点、列、および行にディメンション ID を選択する。「ディメンション (Dimension)」も参照。

ディメンション間の無関係 (Interdimensional irrelevance)

ディメンションのメンバが他のディメンションと交差しない場合に生じる状態。

デスクトップ (Desktop) タスクやオプションのすべてにアクセスできる画面。

データ圧縮 (Data compression) データベースに使用される圧縮の種類。圧縮なし、RLE (run-length encoding)、ビットマップなど。

データおよびインデックスのスレッシュホールド (Data/index threshold) Essbase Storage Manager がデータやインデックス情報をディスクにコミットするデータおよびインデックスキャッシュ内のレベル。ユーザの介入なしに内部で決定する。

データ記憶領域 (Data storage) ページやインデックスファイルをディスクに保存する場所の指定。

データキャッシュ (Data cache) データブロックをメモリに格納するバッファ。

データコピー (Data copy) DATACOPY。データベース間でデータブロックをコピーするコマンド。

データ種別 (Category) 予算データ、実績データ、予測データなど、維持できるデータのタイプを区別するカテゴリ。

データ種別 (Category) 資産を分類して資産入力中のデータ入力のデフォルトを指定する方法。データ種別には、デフォルトで割り当てられたサブデータ種別が関連付けられている。

データ種別 (Category) データの分類。予算データ、実績データ、予測データなど、管理できる各種データタイプを区別するために使用する。

データ種別属性 (Category attribute) データ種別のデータをシステムがどのように表示、処理、組織化するかを決定する設定。データは、期間と期間単位によって組織化される。データ種別属性を使うと、データ種別内の期間数や、データを保存する 1 年の期間数を設定できる。

データソース (Data source) テキストファイル、スプレッドシートファイル、など、Essbase データベースに読み込まれる外部データ。

データ値 (Data value) 「セル (Cell)」、「メタデータ (Metadata)」を参照。

データなし (Missing data) この場所に関連するデータがないか、意味のある値が含まれていないか、または入力されていないことを示す Essbase のマーク。ヌル値とよく似ているが、ゼロとは異なる。

データなし (Missing data) データが存在する期間の前後に、データの入力および読み込みが行われなかった期間がある場合、その期間において欠落しているデータ。ある勘定科目が前の期間または将来の期間、あるいはその両方でデータを含んでいるが、現在の期間ではデータを含まない場合に、データなしのステータスが発生する。システムで処理される際、データなしは常にゼロとして扱われる。

データなしステータス (NO DATA status) エンティティまたは勘定科目が 1 つの期間のデータを含んでいないことを示す連結ステータス。

データなしのナビゲート (Navigate without data) Essbase Spreadsheet アドインのオプションの 1 つ。データの取得をオフにできる。この機能は、データベースに「連動計算 (保存なし)」メンバと「連動計算および保存」メンバが含まれている場合に役立つ。

データ入力表 (Schedule) 特定のレポート上のエンティティとデータ種別に対する勘定科目と期間の表。データ入力表を使ってデータの表示と入力ができる。各データ入力表には、1 つまたは 2 つの勘定科目一覧を含めることができる。

データのクリア (Clear data) CLEARDATABLOCKS。データベースからデータを削除して連動計算のマークを付け、ブロックを未計算として保存するコマンド。

データの視点 (Point of View) アプリケーションを開始するときにどのデータにアクセスするかを指定するために定義するディメンションのセット。

データの視点バー (Point of view bar) 現在のセッションのデフォルトのディメンションを表示する。

データの無いシートの非表示 (Suppress missing sheets)
データ値が含まれていないレポートをスキップする設定。

データの読み込み (Load data) 「データ読み込み (Data load)」を参照。

データ表示形式 (Data view) [データベース] ウィンドウと [データ入力] ウィンドウのデフォルトの表示形式を決定するデータ種別設定。期別表示またはデータ種別累計表示のどちらかを指定できる。

データファイル (Data file) データブロックを含んでいるファイル。Essbase ではデータを読み込むときにファイルが生成され、ディスク ESS<m>.PASS に保存される。

データブロック (Data block) データベース表の連続するセル。データブロックには、1 つまたは複数の隣接する列または行にあるセルを含めることができる。

データベース (Database) Essbase 内のデータのリポジトリ。マルチディメンションのデータ記憶配列が含まれている。各データベースは、記憶領域構造の定義 (データベースアウトライン)、データ、およびセキュリティ定義で構成される。データベースに計算スクリプトが含まれている場合もある。アプリケーションには 1 つ以上のデータベースが含まれている。

データベース管理者 (Database administrator) Essbase データベースを管理する担当者。データベースの設計、保守、および作成を行う場合もある。

データベース再構築 (Database restructuring) データベースアウトラインの変更を反映するためにデータブロックを再構築するプロセス。

データベース設計者 (Database designer) データベースごとにグローバルに使用できる最高レベルのアクセス。このタイプのアクセスでは、計算と更新に関する完全なアクセスとレポートや計算スクリプトを実行できる。

データベース設定 (Database settings) データベースの実行方法を決定する一連の設定。

データベースフィルタ層 (Database filter layer) Essbase セキュリティ計画の層。データベースメンバの特定の設定をセルレベルまで定義する。

データポイント (Data point) 「セル (Cell)」を参照。

データモデル (Data model) 特定の組織のビジネスニーズによって決まるキューブの構成。

データ読み込み (Data load) Essbase データベースにデータを入力するプロセス。データ読み込みによって、データベースの構造アウトラインで定義したセルの実際の値が設定される。

データ読み込みルール (Data load rules) 外部データソースファイルのデータを読み込むときに Essbase がデータに行う一連の処理。

データレスナビゲーション (Dataless navigation) Essbase メタデータを使用してスプレッドシートのレポートを作成する機能。レポートの行と列がデータ値含まずに抽出される。最終的なレポートを取得するにはデータレスナビゲーションをオフにする。

投資 (Investment) 固定資産モジュール (FAM) 外で生じるトランザクション。新しい資産または調整トランザクションを作成する。

投資税額控除 (ITC : Investment tax credit) 納税者の連邦所得課税額に対する控除または減額は、当年中に買い取り、取得した適格機械および装置の原価に対し指定された比率に相当する。

投資税額控除 (ITC : Investment tax credit) 投資による経済の活性化を目的として米国税法で規定されている刺激策。適格な資産を購入した場合に比率に基づく税額控除を認めている。

特殊パッケージ (Special book) 米国以外の国のパッケージの種類。特定の減価償却方法 (カスタムまたは過剰の減価償却) を転記できる。商業または法定減価償却を補足する。

トップダウン (Top-down) アウトラインの最上位メンバから最下位メンバへ順番に行う計算。または、部門/組織のキューブを分離するために、連結モデルからコピーまたは移動したデータ。

トランザクション (Transaction) データベースに実行して、その状態を変化させる操作の集まり。

トランスペアレント (Transparent) データモデルを介して表示されるが、そのモデルに保存されていないデータ。データは、アクティブなモデルにマッピングされているモデルに保存されている。

トランスペアレントアクセス (Transparent access) 「トランスペアレントパーティション (Transparent partition)」を参照。

トランスペアレントパーティション (Transparent partition) 共有パーティションの一形態。リモートデータにトランスペアレントにアクセスして、ローカルデータベースの一部のように操作できる。リモートデータは、ユーザが要求するたびにデータソースから取得される。データの更新はデータソースに書き込まれるので、データターゲットユーザとデータソースユーザの両方が即座にアクセスできるようになる。

トランスペアレントプラン (Transparent plan) ターゲットデータベースでトランスペアレントに表示されるデータ領域を決定するプラン。

ドリルアクロス (Drill across) 「相互接続 (Interconnection)」を参照。

ドリルダウン (Drill down) 詳細なデータに段階的に移動するプロセス。例えば、Market から US、East、New York の順に移動する。「ズーム (Zoom)」も参照。

名前 (Name) 「エンティティ (Entity)」を参照。

名前付きパイプ (Named pipes) 特定のノード間アプリケーション、特に通信サーバとデータベースサーバへのアクセスに Macintosh LAN マネージャで使われるアプリケーションプログラミングインターフェイス。

入力データ (Input data) データソースから読み込まれるデータ。データベースの計算によって生成されるデータではない。

入力ブロック (Input block) データブロックの一種。読み込まれたデータ値が少なくとも 1 つある。

入力ロジック (Chart method) アプリケーションでデータを計算するために使用する計算式のグループ。チャートロジックには、デフォルトチャートロジックと特殊チャートロジックの 2 種類がある。デフォルトチャートロジックは、システム全体で使われる一般的な計算式を定義する。特殊チャートロジックは、デフォルトチャートロジックの計算式に対する例外を定義する。「ロジック (Method)」も参照。

ヌルフィールド (Null fields) 空または値が欠落しているデータ行内のフィールド。

ネストされた列見出し (Nested column headings) 複数のディメンションが含まれている列見出し。例えば、Sample Basic データベースでは、Year ディメンションと Scenario ディメンションの両方を含む列見出し。

年 (Year) 年を示す連動時系列メンバを定義するために使用されるキーワード。

ノード (Node) エンティティ対親の関係。

配賦先勘定科目 (Destination account) すべての計算式において、等号の後に指定された計算式の値を含む勘定科目。例えば、次のロジックの行では勘定科目 A (#ACCOUNTA) が配賦先勘定科目になる。
#ACCOUNTA=#ACCOUNTB+#ACCOUNTC

配列ベースの式計算 (Array-based formula calculator) データのセルを配列に分類して処理する計算機能。大きいブロックを計算する場合に便利である。

半月規則 (Midmonth convention) 資産を取得した月と資産を処分する月（回収期間が終了する前に処分される場合）は、半月分の減価償却が適用されるという規則コード。住居賃貸不動産、住居を除く不動産、鉄道の等級付け、鉄道トンネルなどに適用される。米国税法で使用される。

場所 (Location) 資産の物理的なサイトを定義する。最大 8 つのセグメントから成り、それぞれが資産の正確なサイトを定義している。

バッチファイル (Batch file) 複数の ESSCMD スクリプトを呼び出して複数の ESSCMD セッションを実行するオペレーティングシステムファイル (.BAT 拡張子)。バッチファイルは、バッチデータの読み込みや複雑な計算を処理し、レポートスクリプトを実行するコマンドを含めることができる。サーバ上のバッチファイルをオペレーティングシステムのプロンプトから実行できる。

バージョン 2.x モード (Version 2.x mode) 「自由形式モード (Free-form mode)」を参照。

パスワード管理 (Password management) Essbase Application Manager 内のセクション。管理者がユーザ ID とパスワードを管理できる。

パスワード処理 (Password handling) Essbase アプリケーションにパスワードを設定するプロセス。

パスワードの確認 (Confirm password) 入力したパスワードが正しいことを確認するために再入力するプロセス。

パスワードの変更 (Change password) パスワードの変更プロセス。

パターン照合 (Pattern match) 文字列のパターンに基づいて値を照合するプロセス。

パターン照合 (Pattern matching) 実際の値の代わりに疑問符 (?) やアスタリスク (*) などのワイルドカード値を代入する機能。

パターン照合マクロ (Pattern match macro) 主に計算スクリプトで使用されるマクロ。マクロは疑問符 (?) および末尾のアスタリスク (*) をサポートしている。

パッケージ (Book) 類似したレポートのグループを格納するコンテナ。パッケージでディメンションのセクションや変更を指定できる。

パッケージ (Book) 同時に実行してレポート生成を自動化する関連レポートのグループ。

パッケージ (Book) 資産のインスタンス。パッケージは資産に関連付けられ、資産の値を取得するように設計される。レポート作成や計算の要件に応じて、各資産に多数のパッケージが関連付けられている場合もある。計算、財務など、パッケージを特定の種類に定義すると、特定の計算専用のパッケージになる。

パッケージコード (Book code) 資産に関連付けられたパッケージを示すコード。パッケージコードを使用して、資産のトランザクションデータを記録するパッケージを定義できる。各資産に、少なくとも 1 つの資産／パッケージ関係が必要である。

パッケージセット (Book set) 達成するタスクによって関連付けられたパッケージのグループ。例えば、月末に実行しなければならないすべてのパッケージを含むパッケージセットを作成できる。

パッケージセット (book set) 便宜上、結合したパッケージのグループ。例えば、月末のすべてのパッケージを含むパッケージセットを作成できる。

パッケージのウィンドウ (book windows) パッケージを作成して管理する場所。

パーティション分割 (Partitioning) データモデル間で共有またはリンクされるデータ領域を定義するプロセス。パーティション分割は Essbase アプリケーションのパフォーマンスとスケーラビリティに影響を及ぼす場合がある。

パーティション領域 (Partition area) データベース内のサブキューブ。パーティションは 1 つ以上の領域で構成される。これらの領域は、データベースの特定部分のセルで構成される。複製されたトランスペアレントなパーティションの場合、ソースパーティションとターゲットパーティションが同じ形状であるように、パーティション分割された領域内のセルの数がデータソースとデータターゲットで同じでなければならない。例えば、データソース領域に 18 のセルが含まれている場合、データターゲット領域にも 18 のセルが含まれている必要がある。

日 (Day) 日を示す連動時系列メンバを定義するために使用されるキーワード。

非アクティブ化 (Deactivate) Essbase ユーザをロックアウトするプロセス。

非アクティブステータス (INACTIVE status) このエンティティは現在の期間ではアクティブでないことを示す連結ステータス。このステータスは、データ種別と期間ごとに組織が異なるアプリケーションでのみ表示される。

非アクティブユーザ (Inactive user) Essbase にログインできないユーザ。

引数 (Argument) Hyperion Enterprise のアプリケーションとアプリケーション要素（エンティティやデータ種別など）を計算式内で識別する文字列。引数は計算式の関数の後に続き、コンマ (,) で区切ってかっこ (()) で囲む。引数は、勘定科目の ID などのテキストや、セル参照から成る。

非対称レポート (Asymmetric report) 少なくとも 1 つのメンバが異なるネストされたメンバのグループを特徴とするレポート。メンバの数や名前が異なる。

表示形式メニュー (View menu) ツールバー、データの視点バー、ステータスバーなどを表示または非表示にするとときに使用する。

標準産業分類コード (Standard industrial classification code) 米国の課税に使用される標準産業分類コード。

標準テンプレート (Standard templates) 各期間について共通の調整情報を持つ調整を転記するために使用される仕訳帳の機能。毎月、新しい通常仕訳帳を作成する代わりに、共通の勘定科目 ID、エンティティ ID、または値を含む標準テンプレートを作成できる。標準テンプレートは、類似した調整情報を含む通常仕訳帳の基礎として利用できる。

費用勘定科目 (Expense account) 値が正の場合に純資産を減少させる期別値と累計値を保存する勘定科目種別。

ビジュアルキュー (Visual cues) 特定のタイプのデータ値を強調するためにフォントや色などの書式設定したスタイル。データ値には、ディメンションメンバ、親、子、共有メンバ、計算式を含む連動計算メンバ、読み取り専用のデータセル、読み取りと書き込みが可能なデータセル、リンクされたオブジェクトなどがある。

ビュー (View) 「データビュー (Data view)」を参照。

ビンテージまたはグループ勘定科目 (Vintage or group account) 資産償却限度 (ADR) および修正加速原価回収法 (MACRS) グループ減価償却の対象となる資産の米国税控除の関連付けと最大化に使用する勘定科目。1994 年より後に取得された MACRS 資産には MACRS グループ勘定科目を作成し、1980 年より前に取得された資産には ADR ビンテージ勘定科目を作成できる。ビンテージまたはグループ勘定科目はグループとして減価償却され、勘定科目に属さない資産とは異なる処分ルールが適用される。

ピボット (Pivot) 取得したデータの視点を変える機能。Essbase では最初にディメンションを取得するとき、ディメンションが行に展開される。ユーザはデータをピボット (再配置) して別の視点で表示できる。

ファイル (Files) 1 つ以上のファイルを含んでいるパッケージ。ファイルは送信する前に閉じる必要がある。

ファイル一覧 (File list) 同時に送信するファイルのグループを定義するためにユーザが作成するテキストファイル。ファイル一覧には拡張子「.QLT」が付く。

ファイルの区切り文字 (File delimiter) データソース内のフィールドを区切る文字。

フィルタ (Filter) データベースのセルへのアクセスを制御する方法。フィルタは最も詳細なレベルのセキュリティで、データベース管理者はさまざまなアクセスレベルを定義して、データベースの値にユーザがアクセスできるかどうかを個別に設定できる。

フィールド (Field) Essbase データベースに読み込まれるデータソースファイル内の値や項目。

復元 (Restore) データベースが損傷したり破壊された場合にデータや構成情報を再読み込みする操作。通常はデータベースをシャットダウンして再起動した後で実行する。

複合レポート (compound report) 一緒に表示する複数のレポートを入れるコンテナ。

複製 (Replication) データをソースからターゲットにコピーするプロセス。

複製パーティション (Replicated partition) パーティションの一形態。あるサイトで行われたデータの更新を、別のサイトに格納したデータのコピーに反映させることができる。ローカルキューブの一部として設計されたデータであるかのように、一タにアクセスできる。

複製プラン (Replication plan) ソースデータベースからターゲットデータベースに複製するデータの領域を決定するプラン。

負債勘定科目 (Liability account) 会社の負債を表す「ある時点での」値を保存する勘定科目種別。

フッター (Footer) レポートの各ページの下部に表示されるテキスト。

フラットディメンション (Flat dimension) 同じレベルに多数のメンバを持つディメンション。5000 メンバを持つ製品ディメンションなど。

フラットディメンションの最適化 (Flat dimension optimization) 計算機能の 1 つ。計算のパフォーマンスを最適化するために非常にフラットなディメンションのどのメンバに値があるかを追跡する。

フロー勘定科目 (Flow account) 期別値と累計値を保存する未指定の勘定科目種別。

物理パーティション (Physical partitions) さまざまな場所に物理的に保存されるデータ。

ブロック (Block) Essbase 内の主要な記憶単位。データブロックはマルチディメンション配列で、すべての高密度ディメンションのセルを表す。

ブロックのクリア (Clear block) CLEARBLOCK。データブロックを削除するコマンド。

分割償還 (Amortization) 一定期間にわたって勘定科目残高などの金額を体系的に減額したり帳簿から抹消すること。減価償却の一形態である。分割償還は、営業権その他の無形資産を含む特定の資本支出を回収する手段である。分割償還は、経常事業控除を請求できる支出や、資産勘定に計上され減価償却された支出には適用できない。

分散 OLAP (Distributed OLAP) 分散多次元分析。Essbase の異なるキューブや複数のコンピュータ間のデータ統合を円滑にするアーキテクチャ。

分散アーキテクチャ (Distributed architecture) 複数のコンピュータ (ネットワーク接続されている場合が多い) の複数のデータベースを含むアプリケーション設計。

分散リソース (Distributed resources) Essbase のタスクやデータ記憶領域を複数のサーバやネットワーク間で分散すること。

分配勘定科目 (Distribution account) 資産を 1 つの分配勘定科目に割り当てるか、複数の分配勘定科目間で分配できる。資産の減価償却は各分配勘定科目に比率または単価ごとに記録される。各分布線に指定されたトランザクションデータ入力表または統合スキームによって、分配勘定科目が特定される。

分布線 (Distribution line) トランザクションデータ入力表または統合スキーム。資産の特定部分の分配勘定科目、資産の物理的な場所、および指定の場所と分配勘定科目に分配する資産の数量または比率を決定する。減価償却費を記録する会社も含まれる。

分離レベル (Isolation level) Storage Manager の設定の 1 つ。データベース操作のトランザクション動作を決定する。選択肢には、コミットされたアクセスとコミットされていないアクセスがある。

プレビューウィンドウ (Preview window) レポートを印刷する前にプレビューできる場所。

平均化規則 (Averaging convention) 資産の回収期間の開始と終了を決定するために MACRS、ACRS、および ADR で使用される規則。回収期間によって、資産の使用開始年と使用終了年の減価償却 (および関連する課税控除) が決定する。

並行取得 (Concurrent retrievals) 同時に生じる取得。

ヘッダー (Header) レポートの各ページの一番上に表示されるテキスト。

ヘッダーレコード (Header record) データソースの一番上にあるレコード。データソースの内容を説明する。

変換表 (Conversion table) 総勘定元帳システムなどの他のシステムに属する外部勘定科目または外部エンティティの ID と、それに相当する Hyperion Enterprise の勘定科目またはエンティティの ID を含む一覧。変換表は、データの読み込み時および抽出時に [データベース] ウィンドウで使う。外部 ID と内部の Hyperion Enterprise ID を照合することによって、Hyperion Enterprise との間でデータの読み込みや抽出を行う場合に、そのデータを保存する場所をシステムに指定する。「勘定科目変換表 (Account conversion table)」も参照。

変更ありステータス (CHANGED status) エンティティのデータが変化したことを示す連結ステータス。

変更ログ (Change log) 「アウトライン変更ログ (Outline change log)」を参照。

米国財務パッケージ (Financial - U.S. book) 総勘定元帳データなど、税金報告規定に制約されないデータを記録するために使用されるパッケージ。

米国その他の税パッケージ (Other tax - U.S. book) 州税や保険引替交付など、連邦税以外の税金報告規定に制約されるデータを記録するために使用されるパッケージ。

米国連邦税パッケージ (Federal tax - U.S. book) 米国 IRS の税金報告規定の対象となるデータを記録するパッケージ。IRS では、調整後当期利益や代替最小税など、さまざまな状況で使用される減価償却法を規定している。代替最小税 (AMT) や調整後当期利益 (ACE) の税金報告用のデータをパッケージに記録するかどうかを指定できる。3 つの異なる連邦税パッケージ (標準、ACE、または AMT) を定義できる。これらは別個のパッケージであるため、そのうち 1 つ、2 つ、または全部を同じ資産と減価償却に個別に関連付けることができる。

別名 (Alternate name) 「エイリアス (Alias)」を参照。

ページファイル (Page file) 「データファイル (Data file)」を参照。

ページ見出し (Page heading) レポートの現在のページに表示されているメンバを一覧表示するレポート見出しの一種。ページ内のすべてのデータ値はページ見出しにメンバを含んでいる。

ページング (Paging) インデックスまたはデータ キャッシュがいっぱいになると、特定のキャッシュ バッファの内容がページングされるか、またはディスクに書き込まれる。これは、インデックスページやデータブロックの追加に備えて領域を開放するために行われる。

法定パッケージ (Statutory book) 米国以外の国の課税パッケージ。計算、商業用、および特殊パッケージの税金申告に使用する減価償却のレポートを作成できる。

保険金額 (Sum insured) 資産に掛けられている保険金額。

保護 (Lock) 2つのトランザクションが同時に同じデータセットを変更するのを防ぐ手段。データブロックの保護は Essbase の Storage Manager が処理する。パーティションの作成時に、パーティション定義ファイルを保護して、作業中に他のユーザがその内容を編集するのを防ぐこともできる。

保護済ステータス (LOCKED status) 指定期間が保護されているデータがこのエンティティに含まれることを示す連結ステータス。

保留 (Hold) 受信したパッケージをすぐに処理しないでおくこと。保留されているパッケージは、アクティビティログで待機中と表示される。

保留期間 (Suspended periods) 特定の期間、資産の減価償却を停止するプロセス。

マクロ (Macro) 計算スクリプトで使用されるコマンドのグループ。

マップ (Map) データパーティション間やメンバ間の関連付け。

マルチスレッド (Multithreading) 複数のユーザが互いに干渉せずに同じアプリケーションで作業できるクライアント/サーバプロセス。

マルチディメンション (Multidimensional) 3つ以上のディメンションからデータを参照する方法。個々のレコードはディメンションのセットの交点を表す。

右マウスボタン (Right mouse button) 機能やレポートが並ぶメニューに即座にアクセスできる。

見積減価償却 (Projected depreciation) 減価償却費を記録せずに将来の資産の減価償却を計算するための計算式。

無効のユーザ名 (Disabled user name) アクティブでないユーザ名。このユーザはサーバにログオンできない。ユーザ名は、サーバ設定のパスワード管理オプションでスーパーバイザが指定した制限を超えると、自動的に無効になる。スーパーバイザはいつでもユーザ名を無効にできる。

メインウィンドウ (Main window) Hyperion Solutions 製品のすべてのタスクを開始するウィンドウ。

メタ時刻の設定 (Set meta time) SETMETATIME。ローカルターゲットサイトの現在の*.ddb ファイルで時刻にマークを付けて、ソースの時刻をリセットする ESSCMD。

メタデータ (Metadata) データベース内でデータ値を表すデータ。ディメンション名やメンバ名など。

メタデータ (Meta data) Hyperion Enterprise XA のメタデータには、アプリケーション、ロジック、セキュリティ、株式、レポート、パッケージ、データ入力表、および ACE ロジックが含まれる。

メタ変更の除去 (Purge meta change)

PURGEMETACHANGE。複製された情報、リンクされた情報、またはトランスペアレントな情報を、選択したデータベースから削除する ESSCMD。

メニューバー (Menu bar) さまざまなタスクを実行するためのメニューが表示されている。

メンバ (Member) ディメンション内の個々のコンポーネント。例えば、Sample Basic データベースでは、Year、Profit、および Diet がメンバである。メンバはディメンションにも指定できる。例えば、Year はメンバであると同時にディメンションである。

メンバ指定レポートコマンド (Member-specific report commands) Report Writer の書式設定コマンドの一種。レポートスクリプトに含まれている位置で実行される。このコマンドは、関連付けられているメンバのみに影響する。書式設定コマンドは、メンバが処理される前に実行される。「書式設定コマンド (Formatting command)」も参照。

メンバ選択 (Member selection) Essbase Spreadsheet アドインの機能の1つ。UDA、パターン照合、AND/OR などの選択条件を使用してメンバのサブセットを指定できる。

メンバ選択レポートコマンド (Member selection report command) Report Writer コマンドの一種。兄弟、世代、レベルなどのデータベースアウトラインの関係に基づいてメンバの範囲を選択する。

メンバ名とエイリアスの両方を使用 (Use both member name and alias) メンバ名とそのエイリアスの両方を表示する。

メンバラベルの繰り返し (Repeat member labels) 行ディメンションのメンバ名の繰り返し。

持株会社 (Holding company) 親エンティティに割り当てることができるエンティティ。持株会社は、グループ内の同レベルのエンティティの株式を所有し、グループの親は持株会社とグループの他のエンティティの連結データを保管する。持株会社は、計算ルーチンを実行できる参照点として機能する。

元帳勘定 (Ledger account) 実際および予算の会計データの記録先となるコード値。固定資産モジュール (FAM) では、資産のトランザクションは、各資産分布線に示されたトランザクションデータ入力表または統合スキームに基づいて、指定されたパッケージの元帳勘定に転記される。

有効日 (Effective date) 資産の寿命中にトランザクションが生じる時点。トランザクションの有効日は、使用開始日から資産に関連するすべてのパッケージで完全に処分される日までの任意の点。

ユニバーサル命名規則 (UNC : Universal naming convention)

Hyperion Enterprise の [アプリケーションの追加] ダイアログボックス、[読込] ダイアログボックス、[抽出] ダイアログボックスで使用されるシステム書式のこと。ネットワークサーバとサーバ上の共有ポイントを識別する。UNC のパスでは、ネットワークドライブを表す文字を参照せずにネットワークデバイスへの論理接続が可能。UNC に基づいて付けられた名前は 2 つの円記号で始まり、その後にサーバ名が続く。

ユーザ (User) Hyperion Enterprise、そのタスク、およびアプリケーションの要素へのアクセス権を決定するプロファイル。

ユーザ ID (User ID) Enterprise XA の有効なユーザ ID。

ユーザ ID (User ID) Hyperion Solutions 製品にログオンするために使用するユーザ名。

ユーザ ID (User ID) Essbase ユーザがシステムにログオンするときに使用する ID。

ユーザインターフェイス (User interface) ソフトウェアインターフェイス。ソフトウェアの機能に関する選択肢がある。

ユーザグループ (User group) 類似したセキュリティ要件を持つユーザのセット。ユーザグループには、セキュリティクラスに関するアクセス権を割り当てる。ユーザグループのメンバには、個々のユーザと他のユーザグループがある。ユーザは少なくとも 1 つのユーザグループに所属する必要がある。

ユーザ定義属性 (UDA : User-defined attribute) 計算スクリプトとレポート内で、特定の特性を持つメンバー一覧を返すときに使用するロジック。データベースアウトラインであらかじめ定義されているデータ値のサブセットについてレポートできる。

ユーザ定義属性マクロ (User-defined attribute macro) 主に計算スクリプトで使用されるマクロ。

読み込み (Load) ASCII ファイルのデータをアプリケーションに読み込む処理。データを読み込む場合、データ書式を使って、外部システムのデータをどのように解釈するかを Hyperion Enterprise に指示する。

ラベル (Label) 「ID」を参照。

リサイクル (Recycling) 以前に割り当てたパスワードを割り当てるプロセス。

リモート (Remote) 同じオフィスや他の場所にある別のサーバに格納されているデータやデータベースへのネットワークを介したアクセス。

理由コード (Reason code) トランザクションの種類に基づいて、トランザクションに添付されるユーザ定義の説明。理由コードは照会やレポートを生成するデータを選択するのに役立つ。

領域 (Area) メンバと、パーティションを構成する値の、あらかじめ定義されているセット。

領域の確認 (Verify regions) VERIFYREGIONS。パーティションの定義を検証する ESSCMD。

リンク (Linked) セルから別のデータベースのセル、セル注釈、別のファイルなどへの接続ポイントまたはジャンプポイント。

リンクコマンド (Link command) <LINK. AND/OR 関係を定義するレポートスクリプトで使用されるコマンドまたはマクロ。

リンクされたアクセス (Linked access) 「リンクされたパーティション (Linked partition)」を参照。

リンクされたオブジェクト (Linked object) リンクされたパーティションとリンクされたレポートオブジェクトを含む用語。

リンクされたパーティション (Linked partition) データセルを使用して2つの異なるデータベースをリンクする共有パーティションの一形態。例えば、ユーザがスプレッドシートでリンクされたセルをクリックすると、Essbase では2番目のデータベースにドリルアクロスし、新しいシートが開いて、そのデータベースのディメンションが表示される。その後、ユーザは2番目のデータベースで使用可能なディメンションにドリルダウンできる。

リンクされたプラン (Linked plan) どのデータセルがデータベース間をリンクするかを決めるプラン。

リンクされたレポートオブジェクト (LRO : Linked reporting object) Essbase データベースのデータセルにリンクしている外部ファイル。LRO には、テキスト、オーディオ、ビデオ、ピクチャなどを含んでいるセル注釈やファイルがある。

リーフノード (Leaf node) 「リーフメンバ (Leaf member)」を参照。

リーフメンバ (Leaf member) 子を持たないメンバ。「詳細メンバ」、「レベルゼロ (0) メンバ」、「リーフノードメンバ」とも呼ばれる。

累計 (Accumulate) データ読み込みファイルの値をアプリケーション内の既存の値に追加するデータ読み込みオプション。「結合 (Merge)」、「置換 (Replace)」も参照。

ルートメンバ (Root member) 分岐の最上位メンバ。「リードメンバ」と比較する。

レコード (Record) 並んだフィールド。データソースから単位として読み取られる。

レジストリ (Registry) Windows オペレーティングシステムで使用されるデータベース。設定情報を保持する。Windows アプリケーションの大半はインストール中にデータをレジストリに書き込む。ソフトウェアプログラムを正しく機能させるには、新しくインストールしたファイルをレジストリに登録しなければならない場合もある。

列 (Column) フィールドの縦の欄。

列見出し (Column headings) レポート内でページに横にメンバを並べる部分。複数のディメンションのデータをレポートするには、ネストした列見出しを使用できる。列内のすべてのデータ値に、列見出しに表示されているメンバが含まれる。

レベル (Level) 各ディメンション内の分岐。レベルはリーフメンバ (レベル0) からルートへ1ずつ増える番号が付けられる。

レベル作成 (Level build) アウトライン作成プロセス。ファイルをレベル別に下位から上位の順に処理する。

レベルゼロブロック (Level zero block) 低密度メンバのすべてがレベルゼロメンバである場合に低密度メンバの組み合わせ用に作成されたデータブロック。

レベルゼロメンバ (Level zero member) 「リーフメンバ (Leaf member)」を参照。

レベル名 (Level name) レベルを説明する一意の名前。

レポート (Report) スプレッドシートに類似したデータの表示方法。グリッドの列と行にディメンションを割り当ててレポートを作成する。標準と複合の2種類のレポートを作成できる。

レポート (Report) レポートスクリプトの実行後にデータベースから返される書式付きのサマリ情報。レポートスクリプトから1つまたは複数のレポートを生成できる。

レポート (Reports) Hyperion Solutions 製品のアプリケーションからデータを取得して計算し、その表示方法を指定する。

レポートウィザード (Report wizard) Hyperion Enterprise Reporting 内で動的なアドホッククエリを作成するために使用するグラフィックツール。

レポートウィンドウ (Report windows) レポートを作成して管理する場所。

レポートスクリプト (Report script) Report Writer のコマンドを含んでいる ASCII ファイル。1つまたは複数の作成レポートを生成する。レポートスクリプトは、ESSCMD コマンド行インターフェイスまたは Essbase Application Manager を使用して連続モードで実行できる。スクリプトは、データ取得、書式、出力などの命令を含んでいるテキストファイルである。

レポートセット (Report set) 達成するタスクによって関連付けられたレポートのグループ。例えば、月末に実行しなければならないすべてのレポートを含むレポートセットを作成できる。

レポートセット (Report set) 便宜上、1 つにまとめておくレポートのグループ。例えば、すべての予測レポートを含むレポートセットなどを作成できる。

連結 (Consolidation) ディメンション内の親と子のあらゆる組み合わせのデータ関係を計算する方法。通常、連結は付加的であるが、任意のタイプを使用できる。例えば、ディメンション Year がメンバ Qtr1、Qtr2、Qtr3、および Qtr4 で構成される場合、その連結は Year である。「集約」と「集計」も連結プロセスを表す。

連結 (Consolidation) 子エンティティからデータを収集し、それを親エンティティに集計する処理。子エンティティにデータを入力するか読み込んだ後、連結を実行してそのデータを組織内で集計する。データの連結では、連結ロジックと換算ロジックを使ってデータが計算される。

連結詳細 (Consolidation detail) 子エンティティのデータを親エンティティに連結した結果生じる値。換算、比率、消去、親の調整、調整後の詳細がある。この詳細を保存すると、それぞれの子の詳細監査証跡が個別に提供される。「親の仕訳帳 (Parent journal)」、「親の調整 (Parent adjustments)」、「換算の詳細 (Translation detail)」も参照。

連結比率 (Percent consolidation) 親に連結されるエンティティの値の比率。

連結ロジック (Consolidation method) 連結中に子のデータが親エンティティに集計されるときに実行される計算式から成るロジック。連結ロジックは、蓄積、消去、再分類などの処理を定義するために使われる。システムによってデフォルトの連結ロジック CONSOL が生成され、これによって連結の計算式を入力できるようになる。

連続処理モード (Batch processing mode) ESSCMD を使用する方法の 1 つ。サーバの定期メンテナンスと診断タスクを自動化するバッチファイルやスクリプトファイルを記述できる。スクリプトファイルやバッチファイルを作成して、コマンド行か ESSCMDM または ESSCMDW アイコンから実行できる。

連動 (Dynamic) データ取得と同時にメンバを計算する方法。

連動一覧 (Dynamic list) 内容がフィルタ基準の集まりによって決定される勘定科目一覧またはエンティティ一覧。勘定科目とエンティティの属性が変化すると、連動一覧の内容も変化する。

連動計算 (Dynamic calculation) 「連動計算および保存」または「連動計算 (保存なし)」とタグ付けされているメンバに関するデータを取得するときに発生する計算。メンバの値は、一括計算中にあらかじめ計算されるのではなく、取得時に計算される。

連動計算 (保存なし) メンバ (Dynamic calc (non-store members)) 取得時に Essbase で自動的に計算されるメンバ。取得が完了すると、計算値は破棄される。

連動計算および保存メンバ (Dynamic calc and store members) 取得時に Essbase で自動的に計算されるメンバ。その後これらの値はデータベースに保存される。「連動計算および保存」メンバをこれ以降に取得する際は計算が不要になる。

連動参照 (Dynamic reference) データソース内のヘッダーレコードへのポインタ。

連動時系列 (Dynamic time series) 連動時系列の期間累計レポートを有効にする関数。

連動時系列メンバ (Dynamic time series members) 連動時系列レポートを作成するために Essbase で使用されるメンバ。

連動組織 (Dynamic organizations) アプリケーションの各データ種別と期間に対してユーザが一意的組織構造を作成できるようにするアプリケーションの設定オプション。

連動表示勘定科目 (Dynamic view account) 現在の表示形式と期間単位に基づいて計算される勘定科目。連動表示勘定科目は、入力ロジック内で比率を算出するために使われ、常にアプリケーションのすべてのデータ種別に適用される。

レート勘定科目 (Rate account) 勘定科目表の主要勘定科目。各通貨の為替レートを保存する。[通貨] ウィンドウで通貨を定義すると、「通貨」という名前のサブ勘定科目表が自動的に作成され更新される。作成する各レート勘定科目にこのサブ勘定科目表を添付する。

ログファイル (Log file) 操作やコマンドを記録する Essbase ファイル。アプリケーションログファイルは、ユーザがそのアプリケーションに行った操作を記録する。クライアントログファイルは、クライアントのメッセージ、操作、エラーなどを記録する。エージェントログファイルは、サーバのエージェントプロセスが行った操作を記録する。アウトライン変更ログファイルは、Essbase のデータベースアウトラインに行われた変更内容を記録する。

ロジック (Logic) 勘定科目値の計算方法をシステムに指示する一連のルール。ロジックはアプリケーションのセットアップ時に定義する。アプリケーションの変更時に、変更内容を反映するようにロジックを編集できる。

ロジック (Method) アプリケーションでデータを計算するために使われる計算式のグループ。ロジックの定義では、ロジックの設計、作成、エラーチェックを行う。ロジックの作成、チェック、編集には、[ロジック] ウィンドウを使用する。ロジックはエンティティに割り当てられる。「換算ロジック (Translation method)」も参照。

論理パーティション (Logical partition) 論理的にグループ化され、特定の 방법으로定義されているデータ。

ローカル (Local) ローカルサーバにあるデータやデータベース。

ローカル見出し (Local headings) レポート内の他のディメンション設定に基づいて個々のディメンションの説明の代わりに表示される。

ロールバックポイント (Rollback point) トランザクションがコミットされているかどうかを決定するブレークポイント。

ワークブック (Workbook) 多数のシートのあるスプレッドシートファイル全体。

索引

A - Z

Adobe Acrobat ファイル

Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド,
8

Enterprise, 「Hyperion Enterprise」を参照, 7

Hyperion Enterprise

関数の簡易リスト, 55

セキュリティ, 18

Hyperion Essbase

関数の簡易リスト, 55

Hyperion Schedules, 15

Schedules, 「Hyperion Schedules」を参照, 15

定義済み, 15

計算式, 44

計算式バー, 概要, 28

さ行

サンプルレポート, 作成, 46, 48

書式, レポート, 16, 45

[書式] メニュー, 36

ステータスバー, 29

セキュリティ, Hyperion Enterprise XA, 18

設定, データの視点, 43

セット, 管理, 18

あ行

アイコン

ダイアログボックス, 34

ツールバー, 25

アプリケーション, 選択, 37

ウィンドウ

Hyperion Enterprise Reporting, 23

パッケージ, 30

メイン, 42

レポート, 30

[ウィンドウ] メニュー, 37

た行

タスク, 16

[タスク] メニュー, 37

注釈, 15

ツールバー, 25

ツールバーのアイコン, 25

ディメンション

管理, 39

概要, 49

設定, 42

レポート, 13

データ, 取得, 13

データの視点

概要, 13

設定, 38, 43

データの視点バー, 概要, 27

か行

関数

Hyperion Enterprise, 簡易リスト, 55

Hyperion Essbase, 簡易リスト, 55

一覧, 58

概要, 15

ガイド

『Hyperion Enterprise Reporting セットアップ
ガイド』オンライン版の使用, 8

Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド,
8

キーワード

一覧, 58

は行

パッケージ

管理, 51

基礎, 48

サンプルの作成, 50

開く, 42

パッケージウィンドウ, 32

パッケージセット, [18](#)
[表示形式] メニュー, [36](#)
[ファイル] メニュー, [35](#)
フッター, [46](#)
プレビューウィンドウ, [33](#)
ヘッダー, [46](#)
ヘルプ, [8](#)
[編集] メニュー, [35](#)

ま行

見出し, ローカル, [15](#)

ら行

レポート
 管理, [51](#)
 基礎, [43](#)
 計算式, [44](#)
 サンプルの作成, [48](#)
 出力, [17](#)
 書式, [45](#)
 実行, [46](#)
 設計, [16](#)
 挿入, [49](#)
 タスク, [16](#)
 開く, [42](#)
レポートウィザード, [48](#)
 クエリ, [23](#)
レポートウィンドウ, [30](#)
レポートセット, [18](#)
レポートの出力, [17](#)
レポートの設計, [16](#)
ローカル見出し, [15](#)